

★第2期子ども・子育て支援事業計画 事業別評価シート (市立幼稚園記載用)

基本目標Ⅰ すべての子どもの健やかな成長を応援するまち

幼稚園名	市立幼稚園 集約分
------	-----------

参考資料

1-1 豊かな心、生きる力を育む教育・保育をめざします  
(1)就学前教育・保育の充実

番号	項目	対象	取組内容	園名	令和4年度の取組み内容	取組み・評価	実施上の課題	改善すべき点と改善策
6	各種研修事業	幼稚園・認定こども園・保育所	課題に応じた保育技術の向上や幼児教育の充実等を図るため、保幼の合同研修、市立幼稚園が実施する研修・研究会、国や県主催の研修について情報提供等を行う。	三田幼稚園	・三田市立幼稚園の研究推進に則り、設定した自園の研究テーマ「夢中になって遊び込む子の育成」に向けた取組みを行った。 ・外部講師を招聘した園内研究会(年3回)、東支部研究大会(ハイブリット型)、職員間の保育カンファレンス(日頃より)。 ・市内関係機関、市立幼稚園長会主催研修会等参加。	・子どもの主体性を大切に保育の充実に向けた保育環境の工夫や教師の援助について実践に取り組んだ。 ・園内研究会では、講師の指導助言により子どもの育ちや教師の役割について学ぶことができた。 ・東支部研究会では、子どもが夢中になって遊ぶ姿をハイブリット型で公開し、各市の参加者から評価を得ることができた。	保育の振り返りや研修時間の確保。 研修の充実に向けた取組み方法の工夫。 各研修会への参加の日程や時間の確保。	職員間で継続したカンファレンスを行うための時間の確保を工夫し計画的に実施する。
				三輪幼稚園	三田市立幼稚園の研究に即し、自園の実態から園の研究テーマを設定し、取り組んだ。 事例研修、外部講師を招聘しての園内研究会を通して、取組みの深化をめざした。 東支部研究発表会、園長会をはじめ、関係機関が開催する研修会に参加し、資質向上をめざした。	幼児が遊びを創り出し、遊び込む姿を丁寧に支え、3年間の保育を見通しながら、遊び込みにつながる教師の援助や環境構成について研究を進めた。 ・園内研究会では、外部講師に指導助言を頂いたり、事例研修を行い、幼児の内面をより深く理解し、環境構成や援助の工夫に努め、保育の向上に努めることができた。	研修時間の確保、教師自身が主体的、積極的になれる研究の内容や進め方を検討していく必要がある。	見通しを持って業務を進め、研修会に参加しやすい体制づくりを行う。 日々の語り合いを大切にすると共に、幼児理解につながるカンファレンスを積み重ね、持続可能な研修方法を検討する。
				志手原幼稚園	・三田市立幼稚園の研究基本方針に基づいて研究テーマを設定し、研究を推進した。11月に講師を招聘して園内研究会を行った。日々の保育や幼児の育ちについて丁寧に話し合ってきた。様々な研修会に積極的に参加し、資質向上をめざした。	・講師を招聘し、いただいた指導や助言を職員間で共通理解して研究を深めていくことができた。近隣園の方々と保育について話す場を設定し、援助のあり方を語り合うことにより、保育の質の向上に努めてきた。	・日々忙しく、話し合うための時間の確保が難しい。	毎日短時間ずつ職員間で語り合う場を確保し、それを継続することで、幼児理解や自分たちの学ぶ機会に繋げていく。
				小野幼稚園	・三田市立幼稚園の研究に即し、自園の実態を丁寧に捉え、研究テーマを設定し、取り組んだ。 ・市立幼稚園研究会・各園が実施する園内研究会・各種関係機関・市立幼稚園長会主催研修会に参加し、職員の資質向上に努めた。	近隣園の職員、講師との話し合いを通して、援助の工夫について学び合うことができた。また各研修に参加することで、日ごろの保育を振り返り、資質向上をはかることができた。	園内で研修を行うと園児を見取る視点が限られてくる。工夫して研修を行うことで、様々な視点から園児を捉えていく多面性を補っていく必要がある。	職員間で連携を取りながら研修の機会を保障していく。また、後日報告会を設けるなど、職員全体の資質向上につなげていく。
				母子幼稚園	・三田市立幼稚園の研究テーマに即して自園の研究テーマを設定し、それに沿った日々の保育の進め方を探った。 ・各種研修会に参加し、職員の資質向上に努めた。	研修に参加することで、職員の学びや課題意識を持つことにつながった。また他園所の職員と交流し情報交換することで、共通理解をはかることができた。	極少数保育であり、友達との関わりを通じた学びの保障が困難となっている。	講師の招聘が難しい為、保育の振り返りや、園児の姿の見取りを職員間で日々行うようにした。
				広野幼稚園	三田市立幼稚園の研究推進に則り、設定した自園の研究テーマに沿って、外部講師を招聘した園内研究会、園内実践事例研修、職員間の保育カンファレンスなどの取組みを進めた。 市内関係機関、市立幼稚園長会主催研修会等参加。	子どもが意欲的に活動する姿について幼児理解を深め、自己肯定感を育むための援助や環境構成のあり方について職員間で協議し、理解を深めることができた。 園内研究会では、講師の指導助言により子どもの育ちや教師の役割について学ぶことができた。	研修の充実に向けた取組み方法の工夫、研修時間の確保。 各研修会への参加の日程や時間の確保。	職員間でのカンファレンス、研修のための時間の確保を計画的に行い実施する。
				本庄幼稚園	三田市立幼稚園の研究推進に基づき、自園の研究テーマを「人とのつながりを通し、共に育ち合う子の育成」とし、外部講師を招聘した園内研究会や事例研修等の取組みを進めた。 各種関係機関、市立幼稚園長会主催研修等に参加し、資質向上を目指した。	園の研究テーマに沿った取組みにおいて、幼児の主体性を大切にしながら、4、5歳児が思いを表現し合うことができる環境構成や援助について協議し、理解を深めることができた。 園内研究会では、講師の指導助言により、幼児の育ちや教師の援助について学ぶことができた。	職員間で保育の振り返りをする時間の確保や研修内容を充実させていくことが大切である。	職員間でのカンファレンスや研修のための時間の確保を計画的に行う。
				藍幼稚園	今年度より、4、5歳児混合保育における環境のもと、園の研究主題に基づき教師間での保育計画や保育の振り返りを丁寧にを行った。園内研究会は、幼児たちの“やってみたい”活動を取り入れ、幼児の思いを丁寧に伝えていく保育に努めた。東支部研究会では、積極的参加し、特に援助のあり方について学びを得た。	研究会や研修会に参加することで、教師の資質向上、または、日頃の保育を振り返る機会が多く持てた。	日々の園運営や保育が多忙になると、幼児の姿について職員間で連携をとり、話をする時間が少なくなることがあった。	職員間で丁寧なカンファレンス(家庭環境の背景も丁寧にとらえる)を行う。また、職員それぞれが幅広い感性をもち、考えを表出していくこととする。
				松が丘幼稚園	三田市立幼稚園研究推進に基づき、自園の研究テーマを「自分らしさを発揮し、共に育ち合う子の育成」と設定し、友達とのかかわりの中で育まれる力を見取り、環境構成や援助のあり方を探りながら、園内研究会、事例研修等の取組みを進めた。各種関係機関、市立幼稚園園長会主催研修等に参加し、資質向上をめざした。	園の研究テーマに沿った取組みにおいて、幼児理解に努め、幼児の学びに向かう力が育まれていく過程や、その援助について協議し、理解を深めることができた。 各種研修を通して、職員間で学びを伝え合い、資質向上に努めることができた。	研修時間を確保することや、研修内容を充実させていくことが大切である。	研修会に参加しやすい体制づくりを行う。 幼児理解につながるカンファレンスを積み重ね、研修方法を工夫する。
				高平幼稚園	・三田市立幼稚園研究推進に基づき、園の研究テーマに沿った研究の推進と研究方法や事例の書き方の再考。 ・外部講師を招聘し、園内研究会を実施。 ・関係機関が開催する各研修会、市立幼稚園園長会主催による研修会に参加。	・園内研究会では、外部講師に指導助言をいただき、保育内容の向上に努めることができた。 ・事例研修を行うことで、日々の保育を振り返りながら、幼児の内面をより深く理解しようと努めることができた。環境構成や援助のあり方を考えることができた。 ・市内研修会等に参加し、学びを得ることができた。	・関係機関や園長会による各研修会に全職員で参加することが難しい状況が続いているが、少しずつ緩和されている兆しもある。	・各研修会等で得た学びを職員間で共有するための場や時間を工夫する。

★第2期子ども・子育て支援事業計画 事業別評価シート (市立幼稚園記載用)

基本目標 I すべての子どもの健やかな成長を応援するまち

幼稚園名	市立幼稚園 集約分
------	-----------

1-3 親と子の心と身体の健康づくりを応援します  
(2)乳幼児期の子どもと保護者の健康づくりの推進

番号	項目	対象	取組内容	園名	令和4年度の取組内容	取組・評価	実施上の課題	改善すべき点と改善策
58	食に関する指導、啓発事業	幼稚園、認定こども園、保育所の児童及び保護者	公立幼稚園においては、望ましい食習慣の形成を図り、子どもたちの「生きる力」を育むため、食に関する指導の実施や食に関する情報の提供等を行う。また、地元の新鮮で安心な農作物の利用を進める。保育所においては、自園調理による完全給食を実施し、離乳食や食物アレルギーやアトピーにも対応した給食づくりを実践する。保育所給食部会において、各園の調理師に対して、統一献立を作成する等栄養指導、食育の啓発指導等を実施する。	三田幼稚園	・野菜の栽培を通して、生長の様子に気づいたり、野菜の特徴を調べたりしながら興味関心を広げ、収穫や食する喜びを味わう。 ・地域の方に協力を得て、交流をしながら栽培活動に取り組んだ。 ・収穫した野菜(玉ねぎ、じゃがいも)を給食センターに提供した。	・様々な野菜の栽培活動を子どもが主体的に取り組むことを通して、生長に興味や関心を持つとともに、食への意欲を高めることができた。 ・園の取組を保護者に伝えていくことで、親子で食に関して話をしたり興味関心をもってもらうきっかけとした。 ・自分たちが育てた野菜を給食に出してもらったことで、より食に関する興味が高まった。	・感染症予防や衛生面に十分配慮する中での、クッキング活動の実施の仕方を考える。 ・食に関する活動を情報発信することで、食事への意識を高めて、家庭での食生活につないでいく。	・食についての様々な取組みが、子どもたち主体となっているかを点検し、子どもたちが参画できる活動内容の工夫を行う。 ・園の取組みを分かりやすく保護者に伝えられるように努める。
				三輪幼稚園	野菜の栽培を通して、生長の様子に気づいたり、野菜の特徴を調べたりしながら興味関心を広げ、収穫や食する喜びを味わう。収穫したじゃがいも、玉ねぎを給食センターに提供した。	栽培活動を通して、自分たちで育てる、収穫する、家庭に持ち帰ってクッキングをする経験することで、命の不思議、食する喜び、食への興味関心や感謝の気持ちを深められるようにした。 自分たちが育てた玉ねぎを給食で食したことで、食に関する興味が高まった。	感染症予防や衛生面に十分配慮する中でのクッキング活動の実施の仕方を考える。 家庭と協力して取り組む工夫が必要である。	食についての様々な取組みが、子どもたち主体となっているかを振り返り、子どもたちが参画できる活動内容の工夫を行う。 園の取組みを分かりやすく保護者に伝えられるように努める。
				志手原幼稚園	・園内で栽培活動を行い、野菜の生長や収穫を楽しんだ。育てた野菜を親子で収穫したり家庭で調理していただいたりすることにより、親子で食に対する関心が高まってきている。	・自分達で栽培、収穫した野菜を食することで、食への関心が高まった。また、給食を生きた教材として活用し、食について興味関心をもつきっかけとなった。	・園内のクッキング活動以外でも、食に対して関心をもてるよう、幼児だけでなく家庭にも働きかけていく必要がある。	・園でのクッキング活動について、実施する上で留意すべきことを整理し、安心して取り組めるように配慮していく。
				小野幼稚園	地域の方の協力を得て、様々な栽培活動に取り組んだ。園での栽培活動の様子や取り組んでいることなどを保護者に発信し、収穫したものを家庭で調理していただくことにより、親子で“食”に対して興味をもっていただけるようにしてきた。	自分たちで栽培した野菜や果物を家庭で食すことにより、積極的な姿勢が見られるようになった。 野菜や果物の生長から“生きている”ことを実感し、その不思議さや尊さについて触れる機会となった。	友達と一緒に心動し、土をつくり、栽培し、収穫の喜びを感じつつ、味わっていただくという一連の体験はとても貴重で大切だと考える。	感染予防に努めながら、園内でどのような直接体験ができるのか考えながら、工夫をして取り組んでいく。クッキングについても感染予防を講じつつ丁寧にすすめていく。
				母子幼稚園	地域の方からお借りしている農園、園の花壇やプランター等で季節の野菜を栽培した。毎日変化を見ることが出来る場所においたプランターでイチゴやトマト・サトウ豆を栽培し収穫を体験した。また小学生と共にジャガイモやサツマイモ、タマネギなどを栽培する経験を重ね、各家庭に持ち帰って調理、食することができるようにした。	栽培活動では、日々世話をしながら生長を観察した。自分達で育て日々生長を身近に見ることで食に親しみを持つことができた。また収穫した野菜を家の人に調理してもらうこと、また自ら味わい、他の人にも食べってもらうことで、食を通して関わった人との温かいつながりを実感することができた。	野菜の栽培については野菜嫌いの子にとってプラスの体験となるよう調理の工夫などきめ細やかな配慮が必要である。	園ならではの人のつながりに重点をおき、小学生、様々な職員、地域の方などと、食を通じて様々な人とより一層つながっていく食育活動を工夫していくようにする。
				広野幼稚園	・季節の野菜の栽培を通して、親しみをもって世話の仕方などを調べたり生長の様子に気づいたりし、興味・関心を広げる。 ・保護者と一緒にサクランボの収穫を楽しみ、親子の触れ合いや食に対する関心をもつ。 ・給食時のひとくちおしゃべりタイムの活用、食育フェスティバルへの参加。	・園内の果樹(ウメ、サクランボ、カキ等)の収穫を体験し、季節の爽りに興味・関心をもつことができた。 ・感染症対策を講じ、収穫した野菜等のクッキングを実施した。親しみのある自分たちで育てた野菜を友達と食することを楽しむことが出来た。	野菜などの好き嫌いや偏食がある子が多くみられる。 いろいろな食材に触れることなどの経験が不足している。	教師自身も食育について関心を持ち、計画的に進め、食の大切さを保護者に情報提供するなど啓発に努める。
				本庄幼稚園	・園での季節の野菜の栽培を通して、生長の様子に気付いたり、野菜の特徴を自分たちで調べたりしながら興味、関心を広げ、収穫や食する喜びを味わう。 ・地域の方の協力を得て、交流をしながら栽培活動に取り組む、食に関しての興味、関心を深められるようにしてきた。	・自分たちで世話をし、収穫した野菜を食することで、食への関心や、感謝の気持ちを育むことができた。 ・園で栽培しているサクランボやブルーベリー、キウイ、イチジク等、様々な果実の収穫体験をし、季節の果実にも興味、関心をもつことができています。	感染症対策に十分配慮しながらクッキング活動を取り入れていくことができた。日々の生活の中で、食に対して関心をもてる環境作りが必要だと考える。	様々な食材に触れる機会を作り、幼児の食への関心が高まるような取組みを工夫していく。
				藍幼稚園	新型コロナウイルス感染症に配慮しながら、食育活動を少しずつ進めた。食することに関心をもてるよう、掲示物等、環境の工夫をした。また、自分達で育てたい野菜を考え、飼育栽培に取り組んだ。	日々、野菜の世話や収穫をとおして、食べ物の大切さや必要なことが感じられるよう、給食の環境を用い、保護者と一緒に、栄養教諭の話を聞く時間を設け「食」に対する大切さを知る機会もできた。	保護者にも食に対しての関心を高めてもらうように、クラス通信を活用し、家庭での食生活につなげていくよう促した。	毎日の給食献立を保護者や幼児たちの見える所に掲示する等、食の情報を丁寧に、継続した啓発に努める。
				松が丘幼稚園	野菜の栽培を通して、生長の様子に気づいたり、世話の仕方を調べたりなど、興味・関心を広げ、収穫や食する喜びを味わう。早生黒大豆枝豆のさやもぎ体験に参加し、地域の方の力をお借りしながら食に関しての興味・関心につなげていった。	自分達で大切に世話をし収穫できた野菜を食することで、感謝の気持ちを育むことができた。 地域の特産である黒大豆枝豆のさやもぎを経験し、保護者への「地産地消」の取組も啓発につながった。	感染症対策を徹底しながら、調理活動も取り入れていったが、例年のような多様な取組みは難しい。	食育計画を見直し、幼児の食への関心が高まるような取組みを工夫していく。
				高平幼稚園	・地域や保護者の協力を得ながら、醤油作りを実施した。 ・自分たちで収穫したイチゴやサクランボ、ヨモギなどを使ってジャムやジュース、団子作りに取り組んだ。 ・地域の方とのつながりを紡ぎながら、いちご狩りやスイカの収穫、シタケの収穫などに取り組む、食に関しての興味関心を深められるような活動を進めた。 ・野菜くずを使って、土作りにも挑戦した。	・食育や栽培活動、醤油作りなどの様々な体験を通して、地域の方とのつながりを深めることができた。 ・栽培活動では、主体的に世話をしたり、収穫の喜びを味わったりする姿が見られた。 ・1年間を通して旬の食材に触れることができ、実際に収穫することで、爽り方なども知ることができた。	・食の文化を継承する活動や地域との関係性、栽培活動などが生活の中に組み込まれ、継続して取組を進められるような活動内容の工夫。 ・1年間を通して旬の食材に触れることができ、実際に収穫することで、爽り方なども知ることができた。	・季節を感じながらの活動や食の体験など、地域の方々の協力を得ながら、幼児が主体的に活動を進めていくことができるような環境の工夫。

★第2期子ども・子育て支援事業計画 事業別評価シート (市立幼稚園記載用)

基本目標Ⅱ すべての子育て家庭を応援するまち

幼稚園名	市立幼稚園 集約分
------	-----------

2-1 必要なときに必要な子育て支援が受けられるようにします

(1) 子育て中の親子の出会いのきっかけづくりの推進

番号	項目	対象	取組内容	園名	令和4年度の取組み内容	取組み・評価	実施上の課題	改善すべき点と改善策
70	園庭・園内開放	就学前の子どもとその保護者	在宅の子育て家庭に安全な遊び場や交流の機会を提供する。 ●実施場所 保育所・市立幼稚園・認定こども園	三田幼稚園	0歳児～5歳児とその保護者対象 園庭開放…3回 参加人数は延べ152人。	次年度入園予定の参加者にとっては、園の雰囲気を感じることが出来る機会となった。 保護者のお話サークルと参画し、絵本の読み聞かせなどを楽しむことができた。	地域内で家庭にいる未就園児の数が大きく減少していること、子育て支援の場がたくさんあることなどから、参加者数が減少傾向にある。	情報発信の工夫と内容の充実。
				三輪幼稚園	園庭開放…年間を通じて4回実施 参加人数は、178人。	1回の事業に平均約50名の参加があった。 園庭に様々な遊具を準備して環境を構成し、年齢に応じた遊びを楽しめるようにした。 子ども同士、保護者同士がコミュニケーションを図る機会になった。	地域の未就園児に広く届く、情報発信の工夫。	実施内容を工夫し、充実した事業となるように努める。 地域の未就園児に情報が行き届くよう、地域区長、民生児童委員の方の協力を得ながら発信の工夫に努める。
				志手原幼稚園	・降園後の園庭開放「わんぱくひろば」、保育時間中の園児との交流「いっしょにあそぼ」を、感染防止に努めながら実施した。	・室内より室外での活動を増やすことにより、感染リスクの軽減に努めた。また、同時に熱中症予防にも配慮しながら実施してきた。室外で開放的に遊ぶ姿や、保護者同士が対面で話せる良い機会となった。	・地域配布やホームページによって、支援事業を周知してきたが、周知しきれていない家庭についての支援を考えていきたい。	・地域への情報発信の工夫。参加しやすい雰囲気づくりの工夫が必要である。
				小野幼稚園	・年間4回園庭開放を実施 ・年間3回未就園児との交流 季節の遊びができるようにテーマを設定し実施した。	園庭開放では、在園児とその兄弟がふれあう機会となった。保護者同士の関わりをもつ機会ともなり、子ども、保護者共に交流を深めるきっかけとなっている。	地域の未就園児の数が減少していく中、次回も参加したいと感じるような交流のあり方を工夫していく。	子育て支援事業についてのお知らせチラシを地域に配布し、実施日や実施内容などを知らせる。近隣の未就園児への声掛け等を依頼する。
				母子幼稚園	園庭開放は月一回実施。園庭や保育室を開放し、回ごとにテーマを設け、その都度違う体験ができるようにした。	小学生や小学生の保護者も参加していた。主に児童がリードし様々な年齢層が楽しめるよう配慮しつつ遊びを進めていた。また保護者同士も集い、子育てのことについてなど、意見交換をし交流する場となった。	小学6年生までが集うので、どの年代層も楽しめる用具・遊具・玩具等を選ぶ必要があり、また遊びのテーマ設定や企画の工夫が難しい。	講師等で地域の方に協賛してもらうことで、地域の様々な方にも集って頂き、年代を超えて子育てについて語り合うような場となっていくのではないかと。
				広野幼稚園	降園後の園庭開放 保育中の園内開放(園児との交流) 延べ118名参加	地域の未就園児親子も集い、一緒に楽しむことができた。 運動遊具を並べたり、砂場道具などで存分に遊んだりすることができた。	より広い地域に情報発信し、多くの参加者が集える場を工夫する。	地域への情報発信の工夫。 地域の子育て支援拠点としての役割が充実できる環境の整備。
				本庄幼稚園	園庭開放は年間を通じて2回実施。	・園庭開放では、園庭や保育室を利用して親子で遊びを楽しむことができた。 ・在園児も参加し、未就園児と触れ合える機会となった。 ・保護者同士もコミュニケーションをとれる場となった。	地域の未就園児が減少している中で、安心して参加し、楽しみにできるような交流のあり方を工夫していく。	子育て支援についての案内のチラシを地域に配布し、実施内容を知らせると共に、近くの未就園児への声掛け等を依頼していく。
				藍幼稚園	園庭開放においては4回実施。新型コロナウイルス感染症対策を行うことを心がけながら、日々、降園後においては、園庭を開放した。	スムーズに、ゆったりとした時間配分の中、実施できた。また、保護者同士、コミュニケーションがとれる場ともなった。	日々、情報発信を心がけているが、参加者が減少傾向にある。	活動の情報を幅広く提供できるように、地域の方にも発信したり、園の様子を地域の施設(市民センター、駐在所等)に掲載してもらうよう心がける。
				松が丘幼稚園	ふれあいひろば(園庭開放)を7回実施 4日、14日、24日を「芝生の日」とし、登園後～9:30の間、園庭開放を実施	ふれあいひろばでは、絵本箱「松の実」の方にお世話になり、わらべうたや様々な絵本に触れることができた。園庭の芝生で、存分に体を動かして遊ぶことができた。	地域の未就園児数の減少、就労家庭が多いため、参加者が固定されている。	情報発信の方法を工夫していく。 楽しい園庭開放となるよう、取組み内容を見直していく。
				高平幼稚園	・園庭開放を年4回計画し、3回実施。 ・園庭開放をきっかけに、子ども同士、保護者同士が交流を図ることができるような場づくりに取り組んだ。	・園庭開放日には、バス通園児も参加し、園児、未就園児、保護者同士の交流の場となった。	・保護者や地域住民など、広く情報が周知できるように工夫するとともに、安心して参加し、保護者同士が交流できるようなきっかけ作りや場の提供、内容の検討などが必要である。	・未就園児に情報が広く行き届くよう、情報提供の方法を工夫する。 ・地域民生児童委員の方の協力を得ながら、内容の工夫や充実を図る。

★第2期子ども・子育て支援事業計画 事業別評価シート (市立幼稚園記載用)

基本目標Ⅱ すべての子育て家庭を応援するまち

幼稚園名	市立幼稚園 集約分
------	-----------

2-1 必要なときに必要な子育て支援が受けられるようにします

(1) 子育て中の親子の出会いのきっかけづくりの推進

番号	項目	対象	取組内容	園名	令和4年度の取組内容	取組内容・評価	実施上の課題	改善すべき点と改善策
71	市立幼稚園地域子育て支援推進事業	就学前の子どもとその保護者	未就園児の体験保育活動、子育て情報の提供や相談、保護者同士の憩いの場の提供と交流支援を行う。 ●実施場所 市立幼稚園	三田幼稚園	・2、3歳児とその保護者対象の保育体験…5回。 ・地域子育て推進事業“げんき”実施。 【内容】～わらべうたベビーマッサージ&わくわく運動あそび～	参加親子と在園児が3歳児が人形劇や折り紙遊びを一緒に楽しんだ。 次年度入園予定の未就園児にとっては、園の雰囲気を感じることが出来る場となった。	車で来園ができないため、遠方からの参加希望に応えることが難しい。 さらに、悪天候時は、乳児を連れての徒歩や自転車での来園が困難なため、キャンセルが生じるなど、参加機会を阻む状況がある。	内容の充実と情報発信の工夫を行い、できるだけたくさんの方に親子に利用してもらえるように努める。 園ホームページでの情報発信の工夫。
				三輪幼稚園	子育て支援推進事業は、コロナウイルス感染拡大のため中止。	コロナ禍においても可能な支援のあり方を検討していく必要がある。	・駐車場の確保。 ・感染症対策を講じながら、安心して参加し、交流を図ることができるような場や内容の検討が必要である。 ・在宅の未就園児にも届く発信の方法の工夫。	・実施内容を工夫し、充実した事業となるように努める。 地域の未就園児に情報が行き届くよう、情報発信の工夫。 ・地域民生児童委員の方の協力を得ながら、内容の工夫や充実を図る。
				志手原幼稚園	・園庭やテラスを利用するなど感染対策を工夫して場作りをした。 ・保護者サークルの運営をサポートし、つながりを育む場作りに努めた。	・入園前の幼児や保護者が園へ親しみきっかけ、また保護者同士がつながり合う場になった。日頃の子育てについて、悩みや喜びなどを話す機会となった。	・在園児やその兄弟以外の参加者が少ない。 地域の方への情報発信が課題である。	・内容を充実させ情報発信を工夫していく。子どもだけでなく保護者にもホッといただけるような機会となるように雰囲気づくりを心がける。
				小野幼稚園	地域子育て支援推進事業“げんき”を実施し、未就園児と保護者に参加いただくことができた。	在園児も参加し、賑やかなひと時を過ごすことが出来た。兄弟関係も共に参加いただき、年齢を問わず共に集い、たての繋がりを構築できた。	地域の未就園児数が減っており、保護者同士や子ども同士のかかわりがもちにくくなっている。	子育て支援のチラシは、三田東地区で連携をとり、共に配布し合うようにし、広く呼び掛けていくようにする。 また保護者同士、子ども同士、教師と保護者、子どもの関わりがもてる内容を計画していく。
				母子幼稚園	対象児が地域に不在のため未実施。			
				広野幼稚園	園庭開放年6回 未就園児と園児との交流年3回 入園前3歳児対象保育体験「うさぎっこクラブ」年5回	3歳児の保育体験では、次年度からの入園を楽しみに参加する親子の姿が多くみられた。 園児と一緒に「ふれあいコンサート」や「人形劇鑑賞」を行い、同じ場で楽しむ経験をすることができた。	より広い地域に情報発信し、多くの参加者が集える場を工夫する。	内容の充実と情報発信に努め、できるだけたくさんの方に親子に利用してもらえるようにする。
				本庄幼稚園	・未就園児との交流は、7月に人形劇鑑賞、8月に水遊びを行った。 ・子育て支援推進事業「げんき」を12月に実施し、未就園児と保護者に参加していただくことができた。	在園児と未就園児との交流の場になり、楽しいひと時を過ごすことができた。未就園児にとっては、幼稚園の様子に親しむ機会となった。	地域の未就園児数が減っており、保護者同士の関わりがもちにくくなっている。保護者同士が子育てについて話ができる場や内容の工夫が必要である。	保護者同士がつながるきっかけの場になるように、情報発信の仕方や内容を工夫する。また、子育て等の相談をしやすい職員の雰囲気作りに努めていく。
				藍幼稚園	新型コロナウイルス感染症に配慮し、未就園児交流は3回実施。内容は、在園児と一緒に、季節に合う活動内容を計画(水遊びなど)や、地域の図書ボランティアさんにお世話になり、活動内容を工夫した。また、1歳～3歳対象で「げんき事業(親子でわくわくりトミック)」を実施した。	スムーズに、ゆったりとした時間配分の中、実施できた。地域の方と触れ合う機会にもなった。	日々、情報発信を行っているが、参加者が減少傾向にある。	活動の情報を幅広く提供できるように、地域の方にも発信したり、職員が地域の未就園児の情報が得られる工夫(情報収集)をする。
				松が丘幼稚園	・2、3歳児対象、保育体験「すくすく」4回実施 「水遊び」「運動遊び」「焼き芋パーティ」「製作遊び」に招待し、園児との交流を図った。 ・未就園児との交流で、園児と一緒に遊んだり、人形劇を鑑賞したりして交流を図った。	数回の保育体験「すくすく」ではあったが、入園前に心配なことを相談できる場となった。 保護者同士が触れ合うきっかけとなり、顔見知りになり、子どもの話をする姿が見られた。	未就園児数の減少、就労家庭が多いため、参加者が集まりにくい。	就園につながる保育体験になるよう、実施回数を増やしていく。また、保護者同士がつながるきっかけづくり、子育て情報の交流ができるように支援していく。
				高平幼稚園	・地域子育て支援事業“げんき”の実施…年1回(6月) ・未就園児との交流「一緒にあそぼう」…3回 ・入園前3歳児対象保育体験「なかよしタイム」…年5回 ・園庭開放…年3回	・幼稚園の様子や活動内容を知り、園に親しみをもつことができる機会となった。また、保護者同士、子ども同士が知り合ったり、かかわって遊ぶきっかけ作りができる場となった。	・地域の未就園児数の減少に伴い、参加人数も減少傾向にある。情報発信の工夫が必要である。	・チラシの配布、啓発など、情報発信の方法を工夫しながら、親子の育ちの場、保護者同士、子ども同士のつながりの場としての役割や機能の充実を図る。

★第2期子ども・子育て支援事業計画 事業別評価シート (保育所記載用)

基本目標 I すべての子どもの健やかな成長を応援するまち

保育所名	保育所 集約分
------	---------

参考資料

1-1 豊かな心、生きる力を育む教育・保育をめざします  
(1)就学前教育・保育の充実

番号	項目	対象	取組内容	園名	令和4年度の取組内容	取組み・評価	実施上の課題	改善すべき点と改善策
6	各種研修事業	幼稚園・認定こども園・保育所	課題に応じた保育技術の向上や幼児教育の充実等を図るため、保幼の合同研修、市立幼稚園が実施する研修・研究会、国や県主催の研修について情報提供等を行う。	三田保育所	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部講師を招いての所内保育研修会(年3回)の実施</li> <li>職場人権研修(年2回)・新任研修への参加</li> <li>保幼小連絡会及び交流会への参加</li> <li>統合保育委員会(年3回)、課題サポート(年3回)、巡回相談(年2回)の実施</li> <li>保育士部会、給食部会への参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍の中で、臨床心理士による職員研修を実施し、職員のスキルアップや資質向上に努めることができた。</li> <li>統合保育委員会や課題サポート研修等は、保育における支援方法についての学びを職員で共通理解すると共に、就学を見据えた保護者理解にもつなげることが出来た。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部、内部研修を問わず、保育時間中には参加できる人数に限られる。</li> <li>研修報告を行う時間も限られるため、研修レポート等を活用し、情報共有を図っているが、伝えきれない面もある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTを活用したオンラインやリモート研修等を積極的に活用していきたい。</li> <li>学んできたことを伝え合える場を設け、研修が保育所全体の学びにつながるようにする必要がある。</li> </ul>
				こぼと保育園	<ul style="list-style-type: none"> <li>園内研修を毎月実施(救急救命・音楽等外部講師含む)</li> <li>外部研修(オンライン等含む)に参加</li> <li>キャリアアップ研修に参加</li> <li>三人考就学前部会に参加</li> <li>キリスト教保育関連(オンライン含む)研修に参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>園内研修で学びたいことのアンケートを取り、できる範囲で実行していくようにした。</li> <li>意見交換の場ではどの職員も発言できるように工夫していった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実際に他の園を見学し、職員それぞれの保育を振り返ることが少なかった。</li> <li>研修報告書などを用いて情報共有をしているが、なかなかうまく活用できていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>園内研修を計画的に考え、保育の質を高めていきたい。</li> <li>職員が主体的に学ぶ環境を作っていきたい。</li> </ul>
				光の子保育園	<ul style="list-style-type: none"> <li>園内に外部講師を招いて保育の観察点にそって分析して学んだ。</li> <li>幼児クラスの保育を観察して交流研修をした。</li> <li>保育サポートや巡回相談を利用して、保育のアドバイスをたくさんもらった。</li> <li>Zoomで研修に参加した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナの感染状況を見ながら行うことができ、共通認識が増えた。</li> <li>互いの保育を見ることで気付きが多く、疑問等聞き合うことで学びが深まった。</li> <li>Zoom研修に参加することで、子育て中の保育士が家庭等でも学ぶことが出来た。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>園外の研修等は保育時間があるので職員の参加が限られてしまう。</li> <li>今年度もコロナ禍のため、他園を見学する機会や直接研修を受け話し合う機会がなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>園外の対面研修にも参加していく。</li> <li>園内で互いの保育を見ることで自分を振り返るようにする。</li> <li>自園の公開保育を行い、他園の公開保育にも積極的に参加する。</li> </ul>
				あいの保育園	<ul style="list-style-type: none"> <li>リフレッシュ研修(スクラップブック)(外部講師)</li> <li>人権学習(DVD視聴・グループ討議)</li> <li>ハウレンソウ研修講座(外部講師)</li> <li>保育内容について検討研修</li> <li>保育課題サポート研修 就学前教育部会研修</li> <li>リスクマネジメント研修 その他 オンライン研修</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部研修に行く機会は減ったが、オンラインでの研修を受ける機会を多くもつことができた。</li> <li>リフレッシュ研修では、感性を高める事も楽しめる内容であった。</li> <li>グループ討議等、職員同士が意見交換でき学び合える機会となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全員で受ける研修の時間の確保が難しい。</li> <li>外部研修への参加も考えていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修レポート閲覧の周知を徹底する。</li> <li>研修報告会の時間を確保したい。</li> </ul>
				あさひ若草ナーサリー	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員が自ら学びたい研修(キャリアアップ研修を含む)へ参加</li> <li>園長が必要と判断した場合は、対象職員へ参加を命じた。</li> <li>園内研修として阪神北広域こども急病センター「こどもの急病対処法」を企画</li> <li>プール遊びに向けて、園内研修として心肺蘇生研修を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学びたい研修に参加できるよう、研修の案内を全職員に周知しサポートを行った。</li> <li>園内研修は同じ内容を2日間行うことで、全職員が参加し学ぶことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナウイルスの流行により、一部園内研修が中止となった。</li> <li>今後も現場で必要な学びや学びたい研修を増やしていけるよう、職員の声に耳を傾け計画を立てていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育の充実を更に図るため、改善点を協議し具体化していく。</li> </ul>
				キッズポート保育園	<ul style="list-style-type: none"> <li>園内研修</li> <li>わらべうた研修</li> <li>三田市消防署員による救急救命研修</li> <li>園外研修</li> <li>コダーイによる乳児保育研修(わらべうた、食事、環境) 発達の気になる子への対応についての研修</li> <li>①保育課題サポート研修、②就学前全体研修</li> <li>キャリアアップ研修(保護者支援、乳児、食物アレルギー、マネジメント)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前年度よりは緩和されたとはいえ、コロナ禍ということもあり、大半がリモートでの研修参加となったが、市内で行われた外部の研修(キャリアアップ研修、保育課題サポート、就学前全体研修等)には参加でき、資質向上に努めることができた。</li> <li>乳児保育について、コダーイによるリモート研修により多数の職員が受講し、より保育力向上に繋がったと考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育士の配置的に余裕がなく、希望しても参加が難しい場合がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>時間帯にもよるが、リモートでの参加や実施後に配信で後日にも観ることができるものは共有がしやすい。配信のものは一方的な研修にはなるが、大勢が受講できる利点がある。今後は大人数が集まったの外部研修も増えてくるが、リモートの研修にも引き続き参加をし、学びの機会をできるだけ増やしたい。</li> </ul>
				よこやま保育園	<ul style="list-style-type: none"> <li>園内研修、年4回。オンライン研修。</li> <li>子どもの発達についての研修</li> <li>キャリアアップ研修・運動遊び</li> <li>食育研修・特別支援研修・音楽研修</li> <li>主任研修</li> <li>アレルギー対応研修・睦保会への研修</li> <li>保護者対応について・救急対応について</li> <li>保護者対応</li> <li>運動遊び、音遊び研修</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>共通理解しながら保育の質を高めることができた。保育で疑問に感じることを話し合いなど、キャリアアップ研修など必要な研修を受けることができた。オンラインでの研修が増えたので、職員が進んで受けることができて良かった。</li> <li>会議でテーマに沿っての気づきを付箋を使って、それぞれの思いを伝え合えた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>園内研修の内容を深めていくと、時間が足りないことがある。</li> <li>時間外での園内研修が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>園内研修だけでは時間が足りないため、外部の研修などで保育の質を高められる場にしたい。</li> </ul>
				さんだのもり保育園	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリアアップ研修</li> <li>人権研修 楽器指導研修 保育課題サポート研修</li> <li>園内研修(救命救急・消防訓練・質の向上・わらべ歌・ヒヤリハット・公開保育)</li> <li>法人研修(新人保育士・中堅保育士・ベテラン保育士・クラス担当保育士・主任、副主任研修)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍と人員不足のため園外の研修には積極的に参加することが出来なかったが法人での研修をZoom開催にすることで学びの場を持つことができた。</li> <li>職員会議内に園内研修を実施することで、全職員が参加でき、少しずつだが保育士の質の向上に繋がられた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部研修は保育士の勤務体制により、参加が難しい時があった。事前の計画を綿密に行う必要がある。</li> <li>コロナ禍のため、他園との公開保育研修や見学を実施することができなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>園内研修を計画的に実施する。</li> <li>法人内研修の充実を図る。</li> <li>積極的に参加できるように体制を組んでいく。</li> <li>参加職員の学びを職員間で共有する機会を作る。</li> </ul>

★第2期子ども・子育て支援事業計画 事業別評価シート (保育所記載用)

基本目標 I すべての子どもの健やかな成長を応援するまち

保育所名	保育所 集約分
------	---------

参考資料

1-1 豊かな心、生きる力を育む教育・保育をめざします

(1) 就学前教育・保育の充実

番号	項目	対象	取組内容	園名	令和4年度の取組内容	取組み・評価	実施上の課題	改善すべき点と改善策
6	各種研修事業	幼稚園・認定こども園・保育所	課題に応じた保育技術の向上や幼児教育の充実等を図るため、保幼の合同研修、市立幼稚園が実施する研修・研究会、国や県主催の研修について情報提供等を行う。	三田虹の子保育園	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 園内研修                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビデオ保育検討会 ・クラス別保育検討会</li> <li>・テーマ別研修(乳児保育・幼児教育・特別支援・食育・保護者子育て支援・わらべうた・環境構成)</li> <li>・特別支援研修 ・人権研修 ・虐待研修 ・わらべうた研修</li> </ul> </li> <li>* 園外研修                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・新任研修 ・主任研修 ・キャリアアップ研修 ・特別支援研修</li> <li>・講師を招聘した保護者子育て支援研修 ・乳児保育研修</li> <li>・幼児教育研修 ・幼児教育と小学校教育の架け橋プログラム</li> <li>・実習担当者育成研修 ・リスクマネジメント</li> <li>・兵庫県、三田市主催の各種研修</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳児・幼児クラスごとに園内研修を行い、お互いの保育を開くことで、刺激を受け合うことができた。</li> <li>・オンライン研修は、時間的にも比較的参加しやすく、多様なシフトで働く職員にとっては有効であった。今後も継続していくことで資質向上に努めていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員が全員で話し合う時間を作ることが難しい。</li> <li>・伝達、課題の共有化を図る必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部に保育を開くことが難しいが、園内で日々の保育実践を積み重ねていく。</li> <li>・時間を工夫し負担をかけず、継続して園内で子どもたちの読み取りを話すことができるようにしていく。</li> </ul>
				ほしのさと保育園	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園内研修を定期的実施</li> <li>・キャリアアップ研修へ参加</li> <li>・外部のオンライン研修、対面研修に参加(主任研修・新任職員研修・就学前教育部会・運動あそび・保育サポート研修)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン研修が多く、予定よりもたくさんの職員が色々な分野での研修に参加することができた。</li> <li>・回数は少なかったが、対面研修に参加することで、他園との交流が持てた。</li> <li>・園内研修では、新任・中堅と経験に合わせて行ったことで同じ内容を共通理解できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一度の研修に参加できる人数に限りがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々に必要な研修に参加できるよう園内研修の内容を深めていく。</li> </ul>
				こぐまプリスクール三田園	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;園内研修&gt;                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・電話対応とマナー ・リスクマネジメント</li> <li>・職員に求める保護者対応(保育者としての行動) ・人権と虐待</li> <li>・保育者支援 ・救急救命 ・社員に求めるもの</li> <li>・1歳児交流会 ・2歳児交流会 ・主任交流会</li> <li>・社員による研修(体幹あそび ・気になる子供の偏食 ・睡眠 ・子どもの発達と環境等)</li> </ul> </li> <li>&lt;園外研修&gt;                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアアップ研修 ・食育研修 ・障害研修</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>園内研修では昨年と同じく社員が講師となり、30分間のミニ研修を行い、アウトプットによるスキル向上を目指した。</li> <li>社員による研修では伝える側の難しさを感じていたが、調べた内容が自分の知識につながり、感想を受け取るにより自信にもつながった。</li> <li>救急救命研修では、救急救命の方との対面研修となり、大変よい経験となった。</li> <li>今後も経験を重ねていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;実施上の課題&gt;</li> <li>リモートに対しまだ不慣れもあり、グループディスカッションがうまく進まないところもある。</li> <li>リモート研修を重ね、リモート操作にも慣れていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;改善すべき点と改善策&gt;</li> <li>社員による園内研修の時期が年度後半の実施となった為、負担になった一面もあったので、落ち着いた時期の前半に実施する。</li> <li>又年に一度は対面での研修を、引き続き実施していく。</li> </ul>
				やよいキッズ	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎園外研修                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアアップ研修</li> <li>・保育課題サポート研修</li> <li>・防火講習、消火訓練研修、(ビルの合同消防訓練、年2回)</li> </ul> </li> <li>◎園内研修(安全管理、保健衛生、食育)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修報告の時間を取り、学んだことを職員間で共通理解することで日常保育に取り入れたい見直しを図り、保育の資質向上を心掛けた。</li> <li>・日常の保育の中での課題を出し合い、園内研修の時間を充実させた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部研修は保育時間中の事が多く参加しにくる。</li> <li>・日常の保育の中でスムーズに連携が取れるように、職員同士がお互いに問題提起できる機会を心がける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シフト調整をしながら外部研修にも積極的に参加できるようにする。</li> <li>・毎月定期的に行う職員会議の時間を利用し、更に職員の資質向上につながる園内研修を積極的に計画していく。</li> </ul>
				ミルクたんぼぼ園	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎自己研修計画、経験年数を考慮し年間計画を作成</li> <li>○園内研修(運動遊び、乳幼児救急法、リズム遊び、手遊び、わらべうた)</li> <li>○WEBセミナー(チームワーク力、保育記録の書き方、遊び、運動、保育力等)</li> <li>○園外研修(キャリアアップ研修、保育課題研修、保育学セミナー、園長研修、三田市主宰研修、療育研修、子育て支援研修)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修の制限はあったが、WEB研修を中心として研修へ積極的参加ができ全員の参加が可能となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>WEB研修は参加しやすいが、今後は対面研修にも積極的に参加していききたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修復命書閲覧や研修報告で全職員で研修内容の共有ができてはいるが、園内研修を充実し全職員で知識を深める機会を作る。</li> </ul>
				湊川短期大学附属ぽるとこども園	<ul style="list-style-type: none"> <li>園外研修                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアアップ研修</li> <li>・保育課題サポート研修</li> </ul> </li> <li>園内研修                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・担当制についてキッズサポート保育園見学研修</li> <li>・年齢別保育研修</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キッズサポート保育園へ交代で見学に行き、担当制について学びを深めた。</li> <li>・園外研修はほとんど参加できずであった為園内研修に力を入れた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修にしても職員会議などにしても、少人数ではあるがワンフロアの為時間や場所がなく共通認識をどうとるかが常に課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共通認識を深める為、時間の確保の為少ない人数、クラス単位での話し合いを増やす。</li> </ul>
				けやきキッズガーデン	<ul style="list-style-type: none"> <li>オンライン研修(AED講習、保育課題サポート研修、子ども療育講座、初任主任保育士研修)</li> <li>園内研修(新任研修、マナー研修)</li> <li>園外研修(保育士等キャリアアップ研修、保育内容合同研修会、歯科研修)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全員の職員が研修を受講し、主任保育士研修は、レベルの高い研修を受講することが出来た。</li> <li>・研修会後、研修内容を全職員に伝える時間(フィードバック)を設け、そこから学ぶ事が出来た。</li> <li>・嘱託医である歯科医師より、研修を受ける機会を設け、職員の能力向上を図った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍にあり、オンライン研修の参加が増えたが、構造上個室が無く集中できる環境整備が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員が希望する研修内容が充実すべく、情報収集したい。</li> </ul>
				コスモチャイルド保育園三田園	<ul style="list-style-type: none"> <li>○キャリアアップ研修(乳児保育、保護者支援、保健衛生、安全対策)</li> <li>Zoomにて参加</li> <li>○保育課題サポート(年2回)</li> <li>○園内研修</li> <li>○若手保育士相談事業</li> <li>・ヒヤリハット検証 ・食育 ・不審者対応 ・各種マニュアルの見直し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の中ではあるが、感染状況を把握した上でできる限り研修に参加した。</li> <li>・Zoomによる研修に参加することができ、研修内容を職員間で共有することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園外研修の日程により職員の勤務体制が厳しい日もあった。</li> <li>・園内研修を行う際にも職員数が少ない為、会議に参加できる職員に限りがあった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部研修に参加できるよう、引き続き保育士の継続勤務ができるよう努める。</li> <li>・毎月行う給食職員会議の時間を利用し、職員の資質向上に繋げていく。</li> <li>・共通理解を基に園内研修を行う際にも、できる限り多くの職員が参加できるよう勤務調整を行う。</li> </ul>

★第2期子ども・子育て支援事業計画 事業別評価シート (保育所記載用)

基本目標 I すべての子どもの健やかな成長を応援するまち

保育所名	保育所 集約分
------	---------

1-3 親と子の心と身体の健康づくりを応援します  
 (2) 乳幼児期の子どもと保護者の健康づくりの推進

番号	項目	対象	取組内容	園名	令和4年度の取組内容	取組み・評価	実施上の課題	改善すべき点と改善策
58	食に関する指導、啓発事業	幼稚園、認定こども園、保育所の児童及び保護者	公立幼稚園においては、望ましい食習慣の形成を図り、子どもたちの「生きる力」を育むため、食に関する指導の実施や食に関する情報の提供等を行う。また、地元の新鮮で安心な農作物の利用を進める。保育所においては、自園調理による完全給食を実施し、離乳食や食物アレルギーやアトピーにも対応した給食づくりを実践する。保育所給食部会において、各園の調理師に対して、統一献立を作成する等栄養指導、食育の啓発指導等を実施する。	三田保育所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食育だより(献立表含む)の配布(月1回)</li> <li>・アレルギー食、乳児食など個々に合わせた給食の提供</li> <li>・外部講師による味噌作り、4・5歳児による夏野菜の栽培</li> <li>・5歳児と調理師で食品栄養分類表(食育ボード)に分類掲示</li> <li>・給食部会での認可保育園との情報交換</li> <li>・所内給食検討会(月1回)の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食育だよりを通して、季節の食材・栄養素の情報提供や、簡単レシピを掲載し、食育の推進を図ったりすることができた。</li> <li>・所内給食検討会でアレルギー食をはじめ給食内容について調理師と保育士との情報共有を行っている。</li> <li>・今年度は調理師による3～5歳児への手指消毒の啓発指導(紙芝居)を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調理師と子どもたちの交流が時間的にも持ちにくいと感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クッキングについては内容や取組み方を検討していく。</li> <li>・給食の出来るまでや栄養面について調理師等と実際に交流する中で学び、感謝の気持ちを抱いたり、食への興味や関心をもったりできる機会を持てるよう努めた。</li> </ul>
				こばと保育園	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食育計画に基づき、正しい食事のあり方や望ましい食習慣の啓発、市内の農作物や食文化への関心を高め、食を通じて豊かな心の育成を図るとともに保育園における食育の推進を図る。自園において、多種類の野菜を栽培、収穫をする。</li> <li>・園庭にはぶどう棚がある。</li> <li>・アレルギー食・離乳食等個々に合わせた給食の提供。</li> <li>・コロナ禍でできる範囲でのクッキング。</li> <li>・毎月給食便りを発行。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野菜栽培については、子どもたちも興味を持ち、知識も豊かになることなどから保護者にも好評。自らの手で育てることにより、苦手な野菜が食べられるようになったり、食に対する意欲が増す傾向が見られる。</li> <li>・クッキングを通して作ることの楽しさ、いつも作って下さる人への感謝が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・畑の水やりは毎朝幼児組の子どもが行った。夏の時期の草引きは子どもと出来ない。</li> <li>・職員の野菜を栽培する知識。</li> <li>・コロナ禍でクッキングの機会が減ってしまったので出来る範囲での計画を考えていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多く出来すぎて、収穫しきれない事もあったので、栽培する数の見直しが必要。</li> </ul>
				光の子保育園	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏野菜など子どもたちが作った野菜を給食に入れる。</li> <li>・給食講習会は計画しなかった。</li> <li>・アレルギーの指示書を2月に渡し、学年が変わるときに更新してもらった。</li> <li>・エビペンを持参する子どもがいたため、使い方等を学び、職員会議で模擬実践をした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちが育てた野菜を給食に入れることで、苦手な野菜を食べたり、食べようとする姿が見られた。</li> <li>・安全に食事をして対応できるように職員が共通認識できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で食育の実施が行えなかった。子どもたちの共通体験がへってしまう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス毎のクッキング再開の方法を考えて、実施する。</li> </ul>
				あいの保育園	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食育ボードの活用</li> <li>・行事食の説明</li> <li>・クッキング(幼児) 献立の工夫(世界の献立)</li> <li>・給食室との交流</li> <li>・食事の様子を動画配信</li> <li>・給食だよりの充実</li> <li>・野菜の栽培</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の中でもできるクッキング(1人で完成まで行う)の工夫ができた。</li> <li>・保育士と管理栄養士・栄養士・調理師が相談し食について密に話し合うことができた。</li> <li>・鉄分の不足を補う為の豆乳などを定期的に取り入れた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・苦手な食材やメニューの改善や進め方について引き続き検討していく。</li> <li>・鉄分の不足対策への取組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食についての発達段階の理解を深める。</li> <li>・残食量の削減に取り組む。</li> </ul>
				あさひ若草ナースリー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・郷土メニューやクッキングを通して食体験を行う。</li> <li>・いちごやさつまいも、夏野菜の栽培と収穫を通して、食への関心を高める。</li> <li>・一人ひとりに適した離乳食と除去食対応の個別献立を提供する。</li> <li>・毎月給食連絡会議の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども達と楽しみながらクッキング等の食体験ができ、掲示写真等で保護者へ知らせた。</li> <li>・厨房と連携をもち、食の喜びを味わえる食育の取組みを行った。</li> <li>・離乳食や除去食を安全に提供できるよう、会議で確認し合い、厨房と職員で連携をもって進めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・更に家庭と連携をもち、保護者との会話を大切にしながら離乳食や食事が進められるようにしていく。</li> <li>・更なる食体験の企画を増やす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・改善点や発案の意見が出しやすい会議を工夫していく。</li> </ul>
				キッズポート保育園	<ul style="list-style-type: none"> <li>・色々な季節の野菜を育て、旬を知る。(2～5歳児)</li> <li>・調理前の給食の食材を実際に見て、それがどのように調理されているか見たり、食べたりし、食への興味へと繋げる。</li> <li>・下ごしらえの手伝いをしたり、自分たちで育てた野菜を収穫し、調理して食することで、食への関心や興味を深め意識を高める。</li> <li>・食事の正しいマナーを知らせていく。</li> <li>・朝ご飯の重要さを伝え、早寝早起き朝ご飯の習慣をつけていく。</li> <li>・日々の給食で使われている食材(赤・黄・緑の食品群)を食することで、体の成長や発達にどんな働きがあるかを知る。</li> <li>・アレルギー児に対し、代替え食の提供や体調不良の園児に対し、消化の良いメニューに変更する等の対応を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その日の給食に使う食材(野菜)を実際に手に取り、見たり匂いをかいだり、また下ごしらえ(皮むき、切る等)を手伝うことで、より食べる事への意欲付けとなった。</li> <li>・野菜を育てることで、作り手への感謝の気持ちや、苦手なものも食べてみようとする意欲に繋がっている。</li> <li>・自分たちが作ったものを他クラスや先生に食べてもらい、作り手への感謝の気持ちを育てる。</li> <li>・こどもたちの活動の様子を動画配信やドキュメンテーション等で保護者にも伝え、家庭での食育に繋げることができた。</li> <li>・アレルギー児の除去食について一部除去から完全除去へと変更を行った。アレルギー児については、職員全員で情報を共有し、取り組むことにより適切な代替え食の提供ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍を経て、パーテーションの使用やおしゃべりを控えての食事により、子ども達で食べながら色々な思いを共有する機会が減ってしまっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度より給食時のパーテーションの使用も止め、少しずつ、以前のような形に戻しながら、食を楽しむ機会を増やしていけるように進める。</li> <li>・子ども達の食に対する興味や関心が1年を通じて継続できるようにしながら、食べることの大切さや楽しさを引き続き伝えていきたい。</li> </ul>
				よこやま保育園	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食物ガイドラインにもとづいて、アレルギー対応とする医師の診断書、保護者との連携を行い、個別で対応・配慮する。</li> <li>・離乳食は個々の発達に合わせて個別献立を作成、家庭とともに成長発達を援助する。</li> <li>・離乳食、アレルギー食対応については園長、主任、栄養士、調理師、担任、保護者と連携し提供する。</li> <li>・献立表を配布する。</li> <li>・2、3、4、5歳児のクッキングを行う。担任、栄養士、園長、主任が連携し、安全衛生面を配慮する。</li> <li>・食育たよりを年8回発行する。</li> <li>・2、3歳児の簡単なクッキングの経験ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アレルギー対応とする医師の診断書、保護者との連携を行い、個別で対応・配慮する。</li> <li>・離乳食は個々の発達に合わせて個別献立を作成、家庭とともに成長発達を援助する。</li> <li>・献立表を配布又はシステムからの閲覧を可能にする。</li> <li>・2、3、4、5歳児のクッキングを行うことができた。担任、栄養士、調理師園長、主任が連携し、安全衛生面を配慮できた。</li> <li>・給食ミーティングが充実したものになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5歳児の給食当番の経験は3月のみ実施となった。</li> <li>・プランターや園庭での栽培で工夫し、園児が興味を深める。</li> <li>・調理師と園児の交流、関係性の見直し。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クッキングの内容を深め、担任と調理師と一緒に活動を行えるような環境を整える。</li> <li>・パーテーションがなくなり、楽しい食事の時間に工夫をしたい。</li> </ul>

★第2期子ども・子育て支援事業計画 事業別評価シート (保育所記載用)

基本目標 I すべての子どもの健やかな成長を応援するまち

保育所名	保育所 集約分
------	---------

1-3 親と子の心と身体の健康づくりを応援します  
 (2) 乳幼児期の子どもと保護者の健康づくりの推進

番号	項目	対象	取組内容	園名	令和4年度の取組内容	取組み・評価	実施上の課題	改善すべき点と改善策
58	食に関する指導、啓発事業	幼稚園、認定こども園、保育所の児童及び保護者	公立幼稚園においては、望ましい食習慣の形成を図り、子どもたちの「生きる力」を育むため、食に関する指導の実施や食に関する情報の提供等を行う。また、地元の新鮮で安心な農作物の利用を進める。保育所においては、自園調理による完全給食を実施し、離乳食や食物アレルギーやアトピーにも対応した給食づくりを実践する。保育所給食部会において、各園の調理師に対して、統一献立を作成する等栄養指導、食育の啓発指導等を実施する。	さんだのもり保育園	<ul style="list-style-type: none"> <li>アレルギー児には除去食、もしくは代替え食の提供(生活管理指導表の提出)</li> <li>旬の野菜を給食に取り入れる。行事食の提供</li> <li>園内給食会議 月1回実施</li> <li>給食献立はPDFで配信</li> <li>離乳食献立は紙配布</li> <li>法人内での給食会議を年4回開催</li> <li>毎日の給食を写真提示し、保護者に知らせる。</li> <li>プランター菜園での野菜作り(給食時に提供)</li> <li>お泊り保育でのクッキング(子どもが触れた食材は破棄)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>誤食なく安全に給食提供ができた。</li> <li>旬の食材に触れたり見たり、行事食を提供することで食への関心が深まり、楽しみながら食べ進める姿があった。</li> <li>菜園活動を通して野菜への興味、関心が深まり、苦手な野菜も口にすることが増えた。</li> <li>地域で農業体験する(田植え、芋苗植え付け、稲刈り、芋ほり)</li> <li>幼児クラスの黙食が定着した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍でクッキングの内容や方法の見直しが必要であった。</li> <li>プランター菜園で大量の野菜が収穫できた。職員の栽培に対する興味や知識も増えてきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食育だよりの充実を図る。</li> <li>三大栄養素への分別を子どもと共に行いながら栄養への関心を育てていく。</li> <li>職員の栽培への関心や知識をより一層、高めていく。</li> </ul>
				三田虹の子保育園	<ul style="list-style-type: none"> <li>献立表の配布と共に、日々の献立食を展示し、給食だよりを通して旬の食べ物や調理方法、伝統的な行事食などを保護者に知らせる。</li> <li>食物アレルギーに関しては生活管理指導表の提出と共に、完全除去とする。</li> <li>離乳食は個々のペースを考慮しながら進める。</li> <li>甘酒や手作りおやつを中心に、より安心安全な食の提供を行う。</li> <li>野菜を栽培し、自ら調理し食することで、より身近な食べ物に関心をもち、命を頂く大切さに気付く機会をもつ。</li> <li>給食の米をはじめ、栽培する野菜苗など地産物の利用を推進する。</li> <li>梅シロップや干し柿、餅つき等、季節を感じ伝統文化を知るような体験を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>献立表や展示食を介して、親子で食に関する事柄に関心を寄せる姿が見受けられる。</li> <li>栄養士と連携し「食育の話」を年間計画に添って、毎月、行うことができた。</li> <li>栽培活動を通して、季節の夏野菜や冬野菜への興味・関心へとつながった。また、収穫物の調理を計画的に実施できるよう担当と栄養士が連絡調整を行った。</li> <li>新型コロナウイルス感染予防に努めながら、地域の多世代交流広場にて、畑を利用していただき、ピーナッツや枝豆の収穫を行うことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>建物の構造上、プランターでの栽培に限られるが、引き続き、できる範囲で様々な種類の作物を栽培していく。</li> <li>栄養士や調理師の方々の意見交換を図る時間をつくっていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も季節の行事や旬の野菜の収穫を通して、発達年齢に応じた食育活動を行っていくことができるように職員間で話し合いを継続していく。</li> <li>地域とのつながりを大切にしながら、畑や栽培活動を体験していけるように、担当が年間計画を作成しコミュニケーションを図っていく。</li> </ul>
				ほしのさと保育園	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼児クラスで野菜の栽培、給食で採りたての野菜を味わう。</li> <li>厨房前に食材見本の提示、こどもたちが目で見て当日の食材を知ることで食への興味や食べる意欲につなげる。</li> <li>アレルギー食、離乳食など個々に合わせた調理の提供(生活管理指導表、可食表の提出)</li> <li>毎月1回厨房職員と保育士による給食会議</li> <li>献立表の配布、毎日の給食 おやつ写真掲示</li> <li>学年別のクッキング体験(自分の食べる物をつくる)</li> <li>行事食の提供</li> <li>三食食品と体の関係、旬の食材について、朝食の必要性について知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちで栽培、収穫した野菜が給食のメニューに入ることで、苦手としているこどもも意欲的に食べていた。</li> <li>食材見本があることで、食べ物について友だちと会話することが増え、苦手な食材も把握し、励まして食べている。</li> <li>調理師との関わりの中で楽しみながらクッキングに取り組めた。</li> <li>栄養士よりパネルシアターやゲームにして食や体との関係などの話を聞くことで興味関心につながった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員の野菜栽培についての知識を深める。</li> <li>年齢によっては食育の内容が難しい学年があった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食と体の関係など、学年ごとの開催などを検討する。</li> </ul>
				こぐまプリスクール三田園	<ul style="list-style-type: none"> <li>なかよし献立 ・食育あそび ・季節の野菜の栽培と収穫</li> <li>防災食の提供 ・保護者との連携による食の共有</li> <li>管理栄養士によるアレルギー児童と離乳食児童の定期的な聞き取り ・姉妹園との月1回の給食会議 ・行事食</li> <li>「食の提供・質の向上のためのチェックリスト」評価</li> <li>給食風景、人気メニューのブログ配信 ・給食だよりの情報提供 ・給食時の異年齢交流 ・戸外給食 ・インスタでの食の情報提供 ・一人ひとりに合った離乳食の個別献立の提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食育あそびでは、食材に触れる機会を作ることで、食に対する興味や関心が増し、苦手なものでも食べてみようという意欲に繋がった。</li> <li>ブログやインスタでの人気メニューのレシピ配信は保護者からも好評で、家庭でのより良い食に繋がった。</li> <li>気候の良い時期には戸外で給食を食べる機会を作り、いつもと違う雰囲気を楽しみながら味わうことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ブログやインスタ配信については、どんな情報が必要で好まれるのかなどを意識して配信していきたい。</li> <li>食育あそびについては内容がワンパターンになりがちなので、変化を付けながらできることを計画していきたい。</li> <li>野菜の栽培はプランターでの栽培になるため種類や量が限られてしまうが、子どもたちが興味を持てるよう工夫しながら試していきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>衛生面など気を付けながら、コロナ禍前に行っていったクッキングの実施なども順次できるように、内容や取り組み方を検討していきたい。</li> <li>子どもたちが食べることを楽しみ、食への興味・関心が持てるよう引き続き努めていきたい。</li> </ul>
やよいキッズ	<ul style="list-style-type: none"> <li>食育計画を基に家庭と協力し、規則正しい食事習慣の定着の推進(早寝・早起き・朝ごはん、正しい食事マナー)</li> <li>園だより(給食室からの情報提供)、献立表、食育だよりの配布と掲示</li> <li>家庭と連絡を密にとりながら個々の成長に合わせた離乳食の提供</li> <li>給食ノートを通じて保護者と給食室が日々確認し、個々の状況に即したアレルギー対応食の提供</li> <li>サツマイモやミニトマト・オクラの栽培と収穫体験</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各家庭と連絡を密にとることで、個々の状況にあった離乳食、アレルギー除去食を提供することが出来た。</li> <li>給食担当職員が子どもたちの食事の様子を知り調理を工夫し提供することが出来た。</li> <li>給食献立や食育だよりで食事に関する情報を提供し、規則正しい生活サイクルや朝食の大切さを伝え、安定した生活が送れるよう家庭と協力した。</li> <li>食材に興味を持ち感謝の気持ちを持って食事をする事が出来た。</li> <li>サツマイモやミニトマト・オクラなどの野菜の成長に興味を持って触れることが出来た。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>離乳食やアレルギー食については、保護者と連携し個々の成長段階に合わせる。誤食防止。</li> <li>給食室との綿密な連絡・報告。</li> <li>給食担当職員と子どもたちや保護者との交流。</li> <li>野菜の栽培についての職員の知識を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食育についての保護者の悩みにも早めに気づき、園での様子も具体的に伝え、家庭でも楽しく食事の時間が過ごせるように情報提供をしながらサポートする。</li> </ul>				



★第2期子ども・子育て支援事業計画 事業別評価シート (保育所記載用)

基本目標 I すべての子どもの健やかな成長を応援するまち

保育所名	保育所 集約分
------	---------

1-3 親と子の心と身体の健康づくりを応援します  
(2) 乳幼児期の子どもと保護者の健康づくりの推進

番号	項目	対象	取組内容	園名	令和4年度の取組内容	取組み・評価	実施上の課題	改善すべき点と改善策
58	食に関する指導、啓発事業	幼稚園、認定こども園、保育所の児童及び保護者	公立幼稚園においては、望ましい食習慣の形成を図り、子どもたちの「生きる力」を育むため、食に関する指導の実施や食に関する情報の提供等を行う。また、地元の新鮮で安心な農作物の利用を進める。保育所においては、自園調理による完全給食を実施し、離乳食や食物アレルギーやアトピーにも対応した給食づくりを実践する。保育所給食部会において、各園の調理師に対して、統一献立を作成する等栄養指導、食育の啓発指導等を実施する。	ミルクたんぼぼ園	<ul style="list-style-type: none"> <li>食育計画に基づき、望ましい食習慣の形成づくりに努める。</li> <li>アレルギーに対しては、食物アレルギーガイドラインに添って対応、代替食を提供する。保護者、医師、保育士、調理師等連携を密に行う。</li> <li>離乳食マニュアルを基として、個々の成長発達に合わせ保護者、担任、栄養士、調理師と連携して進める。</li> <li>季節、伝統食、行事食を取り入れた献立及び実施。</li> <li>給食実物展示</li> <li>食材にキャラクターで給食への興味関心の促しと偏食対応。</li> <li>トマト、オクラ、シイタケの栽培、収穫。</li> <li>1、2歳児クッキング</li> <li>給食会議(月1回)</li> <li>食育だより発行(毎月) クッキング、給食等ブログにて発信。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個々の成長発達に合わせた対応により食への興味関心を促すことができた。</li> <li>年齢や興味関心、成長発達を考慮したクッキング実施することができた。</li> <li>給食だより、園だよりを通して保護者への望ましい食生活や習慣の啓発を行うことができた。</li> <li>保育士、調理師、栄養士が協力して食育への取り組みができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>嚥下、咀嚼の対応。</li> <li>離乳食を進める上での保護者との連携</li> <li>子ども食生活、習慣、マナー等についての家庭との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食育だより、園だよりやSNSを通して望ましい食生活、食習慣の情報提供をしていきたい。</li> </ul>
				湊川短期大学附属ほるとこども園	<ul style="list-style-type: none"> <li>食育計画に基づき、望ましい食習慣の形成に努める。</li> <li>家庭と連携をとりながら、個々の成長に合わせた離乳食の提供。</li> <li>食物アレルギーの個々への対応を細やかに行う。</li> <li>簡単なクッキングや野菜の栽培等を取り入れ食への興味を持てるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個々の成長・発達に応じた対応を心がけ、偏食が少なくなってきた。</li> <li>家庭との連携を密に行うことで離乳食から給食への移行をスムーズに行うことができた。</li> <li>もちつきをして季節の行事を感じたり、連携園の場所を借りて野菜の栽培をし生長を感じることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>野菜の栽培では連携園までの距離がどうしてもあるので毎日の水やりや生長を感じることに無理が生じることもあるという所ではあるが、園での栽培は難しいので仕方がない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度も連携園で野菜栽培をしたい。</li> <li>引き続き連携園の委託業者や栄養士との連携を深め、より良い給食・離乳食の提供に努める。</li> </ul>
				けやきキッズガーデン	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康な生活の基本としての「食を営む力」を育む。</li> <li>グループ統一の管理栄養士による献立作り。</li> <li>郷土料理、外国料理、また季節の食材を取り入れる。</li> <li>アレルギーに対応した給食を提供する。</li> <li>季節に応じた食育、SDGsを踏まえた指導を行う。</li> <li>いちごの観察、手洗いの仕方を知る、夏野菜・芋スタンプ、黒大豆枝豆のさやもぎ体験、寒天ゼリー遊び、わかめの感触を味わう、秋の味覚柿、栗を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「給食で日本の郷土料理巡り」と題し、毎月給食にて提供。</li> <li>食育活動を行う際、食育活動計画、実施票を作成し、企画・プロセス・結果を評価し、今後の方向性を決定している。</li> <li>お便りなどで、食育の取り組みを発信。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>連携施設からの給食搬入。実際に調理員が作っている所を見たり、調理員が、子ども達の食べている様子を見る事が出来ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>園バスを利用し、出来るだけ連携施設の調理室の見学などを行っていきたい。</li> </ul>
				コスモチャイルド保育園三田園	<ul style="list-style-type: none"> <li>食育計画を基に、望ましい食習慣の形成に努める。</li> <li>食物アレルギーに関しては、年度毎に一度検査を受けてもらい、医師の指示書を基に見直しをし完全除去食とする。</li> <li>アレルギーに対応した食事だが、アレルギーのない子どもにも全員が同じ物を提供し誤食防止に努める。</li> <li>自園調理で給食の提供を行い、園長、保育士、管理栄養士、保護者と連絡を密に取り合いながら個々の食事を進めていく。</li> <li>園便り、予定献立表の配布、献立の写真を掲示</li> <li>ミニトマトの栽培、収穫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食事や様々なメニューに興味を持ってもらえるよう、調理師、管理栄養士も一緒に食育に取り組んだ。</li> <li>アレルギー児の人数が減り、食材の数やメニューも増え充実した献立になった。</li> <li>子どもたちの嗜好に合わせた献立の工夫をし提供することができた。</li> <li>ミニトマトの栽培では、2歳児が当番制で水やりをすることで、より楽しみながら栽培ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アレルギー児の人数が減り、アレルギーに対する意識が低くなっていった。</li> <li>朝食の重要性を理解する。</li> <li>ベランダ等の戸外がない為、野菜の栽培や収穫が難しいが室内で栽培できるものを試していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員の入替りがありアレルギーについての共通理解ができていない。</li> <li>朝食を食べてから登園できるよう、生活習慣の見直しもしてもらい園で機嫌よく過ごせるように、朝食の大切さを知らせていく(朝食を食べてない日の園での様子も知らせていく)。また朝食の内容についてもアドバイスをを行い腹もちの良い物の提供をしてもらう。</li> </ul>

★第2期子ども・子育て支援事業計画 事業別評価シート (保育所記載用)

■基本目標Ⅱ すべての子育て家庭を応援するまち

保育所名	保育所 集約分
------	---------

2-1 必要なときに必要な子育て支援が受けられるようにします

(1) 子育て中の親子の出会いのきっかけづくりの推進

番号	項目	対象	取組内容	園名	令和4年度の取組内容	取組み・評価	実施上の課題	改善すべき点と改善策
69	地域子育てステーション事業	就学前の子どもとその保護者	子育てに対する豊富なノウハウ・経験をもつ地域資源である保育所・幼稚園・認定こども園が子育て支援事業	三田保育所	人形劇、紙芝居読み聞かせ、水遊び、音楽遊び等を実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症感染予防のため、音楽遊びのみの実施となった。	コロナ禍の中で、感染症対策をしながらの実施のため参加者は少数であった。	新型コロナウイルス感染症予防のため実施することが難しい。	感染症の状況を見ながら、内容や時期、回数を検討する必要がある。
				こばと保育園	・各月1回実施 ・内容:園庭開放、園行事(こども動物園・焼き芋パーティ等)への参加、製作物の時間を来園する親子(子ども)に対して提供する。 ・令和4年度は、感染対策のため参加人数を減らした。	・参加人数が減ってきている。 ・子育てステーションでの来園時に雑談形式でいろいろな悩みや相談を受けることがある。	・感染対策を考えながら、内容を考えていききたい。 ・各年齢にあった製作物の準備をしていく。	・保育園に遊びに行きたいと思ってもらえるような内容を工夫し、準備していききたい。
				光の子保育園	・室内の活動は無し、園庭開放のみ。年間10回、延べ32人参加した。	・園内の開放は無くし、園庭活動のみにした。 ・天候により中止になったこともあった。 ・参加者と対面で話をしたり、質問に答えたりした。	・感染対策を考えながら何が出来るか考える。	・現状を維持して、外の活動として取り入れられることを考えていく。
				あいの保育園	・親子で一緒に製作等、親子での参加 ・保護者のリフレッシュを目的とした内容(子ども預かり) ・終了後にアンケートを実施	・HPから申込みができるようになったことで、利用者も増えた。 ・親子で一緒に楽しむ内容が人気であった。 ・リピーターの方も多く園に慣れてきた方が増えている。	・外部講師の方に来ていただく内容の日に、当日キャンセルが入ると材料等が余ってしまうことがあった。調整が難しい。	・アンケートの結果を次につなげていきたい。
				あさひ若草ナースリー	・園見学と離乳食の試食会を月1回実施	・園見学では、本園の温かな雰囲気を喜ばれ、園のことを知る良い機会になったと高評価を受けた。 ・離乳食の相談や育児相談に応じることができた。	・月により申し込み人数の差が見られた。	・見学者等にも開催を伝え、今後も積極的に取り組んでいく。
				キッズポート保育園	・実施回数12回(内4、8、9月はコロナ感染症拡大の為、参加希望者がなく実施中止) ・実施内容 春の製作(絵の具遊び)、しゃぼん玉あそび 運動遊び、散歩(秋見つけ)、冬の製作(クリスマスツリー) 手形アート(成長の記録)、玩具の製作、新聞紙で遊ぼう ・広報活動、園舎前掲示板に案内掲示、子育て情報広場等で案内	・保育経験豊富なベテラン保育士が担当しており、様々な子育て相談に応じることができる。 ・リピーターが多い。少人数なので保護者同士も仲良くなりやすく、保護者同士が子育てでの悩みを共有できる場になっている。 ・保育園への入園を希望されている方には、必要に応じて園長、主任が対応し、案内や質問等にお答えしている。	・開催する部屋がなく、ホールで行っているため、場所に限りがある。 ・同敷地に同附属の幼稚園が隣接しているため、駐車場に限りがある。	・場所や駐車場については、現状では改善は難しい。 ・園のSNS等も利用して案内し、新規の参加者も増やしていきたい。
				よこやま保育園	子育てステーション一実施回数、月1回年12回 内容…園庭で遊ぼう。 保育園のおもちゃで遊ぼう。 親子で制作 体を動かして遊びを楽しもう。 手作り楽器遊び、親子でふれあい遊びなど 募集人数約5組	人と接する機会が減る中、保護者同士のコミュニケーションの場となったりゆったりした雰囲気の中で遊びを楽しめた。 親子の触れ合いを大切にしていきたいと思います。	・感染症対策しながら、年齢を問わず参加してもらえる内容を考えていく。	新型コロナウイルス対策をしながら、内容を工夫することで、親子で喜んでもらえるよう準備する。 今後も取り組んでいく。
				さんだのもり保育園	・スマイル広場(子育てステーション)の開催:月1回 ・子育て相談(随時) ・園内見学(随時) ・一時保育の実施	・子育てステーションでは、季節によって催し物を工夫し、親子で楽しく参加したり、相談の場となるよう努めた。 ・コロナ禍の為、今年度も感染状況を加味しながら実施した。反対に警戒されてか参加者が少なかった。 ・一時保育利用希望者は毎日キャンセル待ちがあるほど多い。	・コロナ禍の影響でスマイル広場(子育てステーション)への参加者が極端に少ない。 ・一日の一時保育利用者数に限度がある為、市内に一時保育を増やす必要があると思う。	・感染状況を見ながらだが、ベビーマッサージも再開していきたい。
				三田虹の子保育園	子育てステーション一実施回数、月1回年12回 ○内容 ・園庭開放～みんなで遊ぼう～ 園の施設状況的に室内で遊ぶことが難しいため、園庭で遊ぶことが多かった。しかし、参加者の年齢や人数によって、季節の製作や大型絵本の読み聞かせなどを行った。 ○募集人数約3組(コロナ禍に伴い少人数に留めた)	・乳児の参加が多く、みんなで何かをする取り組みより自由に遊べる方が喜ばれた。 ・コロナだけでなく様々な感染症が流行している時は、開催を見合わせることもあった。	・園内の広さなど施設上の課題は多い。また、感染症対策を行いながら、どのようなことができるかを検討していきたい。	・受け入れ態勢(環境・時間・職員の配置など)を整える。 ・年齢に応じた遊びを提案していけるようにしていく。
				ほしのさと保育園	・園見学	・随時園見学を行い、園の雰囲気などを感じていただけるよい機会となった。	・感染症対策を行いながらの見学であったため、少人数で来ていただくこともあった。	・状況に合わせ、随時見学に対応していきたい。
こぐまプリスクール三田園	実施なし							
やよいキッズ	実施無し					・自園での開催は設備的に難しいため、連携園での園庭開放等の情報提供をする。		

★第2期子ども・子育て支援事業計画 事業別評価シート（保育所記載用）

■基本目標Ⅱ すべての子育て家庭を応援するまち

保育所名	保育所 集約分
------	---------

2-1 必要なときに必要な子育て支援が受けられるようにします

(1) 子育て中の親子の出会いのきっかけづくりの推進

番号	項目	対象	取組内容	園名	令和4年度の取組内容	取組み・評価	実施上の課題	改善すべき点と改善策
69	地域子育てステーション事業	就学前の子どもとその保護者	子育てに対する豊富なノウハウ・経験をもつ地域資源である保育所・幼稚園・認定こども園が子育て支援事業を実施する。●実施場所 保育所・認定こども園・私立幼稚園	ミルクたんぽぽ園	・子育て相談随時 ・園内見学随時	・昨年に引き続き、電話およびメールのみの実施		
				湊川短期大学附属ぼるとこども園	実施なし			
				けやきキッズガーデン	・未就園児活動として、年9回、実施予定だったが今年度は、新型コロナウイルスの影響で7回実施。 今年度より、土曜開催日を設け、父親参加を促す。 ・体験保育を中心に、育児相談、親子交流の場を提供する。	・施設の関係で、親子6組の募集、園見学の親子が積極的に申込あり。 ・土曜開催としたため、少ない園児とともにゆったりとした体験保育が可能となった。 ・参加者の中から、入園に繋がる子どもが増加。	・土曜開催としたため、職員の配置など	・来年度は、定員を増やし、絵本コーナーなど、育児相談、親子交流をしやすい環境を整えたい。 ・情報提供のため、年度初めに市内の各施設（市民センターなど）に、案内を掲示予定。
				コスモチャイルド保育園三田園	・実施なし			

★第2期子ども・子育て支援事業計画 事業別評価シート (保育所記載用)

■基本目標Ⅱ すべての子育て家庭を応援するまち

保育所名	保育所 集約分
------	---------

2-1 必要なときに必要な子育て支援が受けられるようにします

(1) 子育て中の親子の出会いのきっかけづくりの推進

番号	項目	対象	取組内容	園名	令和4年度の取組内容	取組み・評価	実施上の課題	改善すべき点と改善策	
70	園庭・園内開放	就学前の子どもとその保護者	在宅の子育て家庭に安全な遊び場や交流の機会を提供する。 ●実施場所 保育所・市立幼稚園・認定こども園・私立幼稚園	三田保育所	例年はホッとステーション事業の参加者に、園庭を開放しているが、令和4年度は新型コロナウイルス感染症感染予防のため未実施。	未実施	新型コロナウイルス感染症予防のため実施をすることが難しい。	新型コロナウイルスの感染状況も踏まえながら、ホッとステーション事業も含め園庭開放を行えるか検討していきたい。	
				こばと保育園	・毎週月・水曜日13:00～16:00 ・内容:園庭を開放し、自由に好きな遊びを提供する。 ・地域子育てステーションと合わせて案内はしている。	・令和4年度はコロナの影響か利用者はなかった。			
				光の子保育園	・年間38回、延べ68人参加した。	・コロナ禍だからか利用者が少なく、メンバーが限られていた。 ・利用する方がいるので開放し続けた。	・感染対策を考えながら何が出来るか考える。	・現状を維持して、外の活動として取り入れられることを考えていく。	
				あいの保育園	・園庭開放 月～金(10:00～12:00)で実施	・親子で園庭で遊んでもらうことができた。 ・友達同士で来られた。 ・遊んでいる中で、育児相談につながった。 ・なかよしひろばや一時預かりの参加につながった。	・園庭開放に来られる時間が遅いと、乳児クラスは保育室に入ってしまう、一緒に遊ぶことができずに残念そうだった。	・園内のイベント等などの発信を今後も継続して行っていく。	
				あさひ若草ナースリー	実施なし				
				キッズポート保育園	開催回数 36回 ・広報活動 園舎前掲示板に案内掲示 子育て情報広場等で案内	・コロナ禍ということもあり参加者も少なかったが、積極的な広報も行っていなかった。	・開催日は出勤している職員数が少ない為、配置できる職員が不足しており、親子で自由に遊んでいただくだけになっている。	・園庭で遊んでいるクラスの担任等が、利用者に見えるだけ声をかけたり、園児とのあそびに誘ったりを心がける。 ・園のSNSで案内する等、積極的な発信をしていきたい。	
				よこやま保育園	・子育てステーション事業で園庭開放「園庭で遊ぼう」を実施する。	・子ども同士や保護者同士と交流できる場となった。 コロナ過であったため、参加率が低かった。	園庭が狭いため、園児との遊び方に保育士の仲立ちをしっかりと行う。保育活動を工夫する。	・園児との交流を更に深めたり、経験できる場に行きたい。	
				さんだのもり保育園	園庭開放:月4回(毎週水曜日)	・コロナ禍で参加者がいない日も多くあった。 ・園児との交流を経験したり、園を知っていただく良い機会となった。 ・友だちの紹介、三田に引っ越してきたなどで利用する方もいた。	・開催日に必ず職員が配置できるとは限らない為、保護者との関わりが難しい時がある。	・実施日を欄に掲示するなどして積極的に周知していく必要がある。	
				三田虹の子保育園	子育て支援事業の中で、園内・園庭での遊びを提供してきた。	コロナ禍では建物の構造上、出来ることが限られ、対応には苦慮しているのが現状である。	施設の構造上、自由に園庭開放することが難しい。	建物の構造上の制約があり、提供方法は常に課題となる。引き続き、少人数での受け入れとなるが、安全なスペースとして遊具の提供を行い、遊ばせながら保護者に寄り添い話を聴く等の活動を継続する。	
				ほしのさと保育園	実施なし				
				こぐまプリスクール三田園				園庭はなく、園内の広さも開放できる規模ではない為、実施は厳しい。	
				やよいキッズ	同一法人連携園での園庭開放等。	・継続的に園庭開放を利用する家庭が増えてきた。	・親子&保護者同士の交流のきっかけ作りの場の提供。	・連携園の園庭開放の案内を園内に掲示し情報提供をする。	
				ミルクたんぼ園	実施なし				
湊川短期大学附属ぼるとこども園	実施なし								
けやきキッズガーデン	実施なし								
コスモチャイルド保育園三田園	実施なし			・商業施設内の保育園なので園庭はなく、園内で開放できるスペースがない為実施は厳しい。					

★第2期子ども・子育て支援事業計画 事業別評価シート (認定こども園記載用)

基本目標 I すべての子どもの健やかな成長を応援するまち

幼稚園・認定こども園名	私立幼稚園・認定こども園 集約分
-------------	------------------

参考資料

1-1 豊かな心、生きる力を育む教育・保育をめざします  
(1)就学前教育・保育の充実

番号	項目	対象	これまでの取り組み	園名	令和4年度の取り組み内容	取り組み・評価	実施上の課題	改善すべき点と改善策
6	各種研修事業	幼稚園・認定こども園・保育所	課題に応じた保育技術の向上や幼児教育の充実等を図るため、保幼の合同研修、市立幼稚園が実施する研修・研究会、国や県主催の研修について情報提供等を行う。	認定こども園 湊川短期大学 附属北摂第一幼稚園	○兵庫県 ・新任研修、児童虐待対応研修会 ○三田市 ・保育内容合同研修会 ・キャリアアップ研修 ・保育課題サポート事業の研修 ・保幼小中連絡会 ○私立幼稚園協会 ・研究部会 ○その他 ・養成校によるキャリアアップ研修 ・療育機関との連携研修 ・附属園公開保育 ・キンダーカウンセラーとの連携 ・児童発達支援えがお 桐村先生講演会	・コロナ禍のため、中止になったりオンラインになった研修もあった。オンライン対応にも慣れたことと、移動時間が不要な点から、メリットも多くあると感じた。 ・附属園で研修会を開催し、それぞれの園での取り組みを見合うことで、園に取り入れたり、情報を共有したりできた。 ・三私幼の公開保育では、近隣であっても園内には立ち入ったこともなかったため、保育のやり方はもとより立地状況、環境構成、職員数等を実際に見て学ぶ面が沢山あった。	・研修で学んだことを職員間で報告、共有し合うことが難しい。 ・せっかくの公開保育も、担任は保育があるため、参加することが難しい。	・研修報告書の様式を変更し、内容報告と共に資料を添付して回覧することで、参加者以外も研修内容の理解に繋げていきたい。 ・公開保育に抵抗感があり、率先してやりたい職員がいなかった。また計画が遅く、実施時期が遅かった。次年度からは計画的に実施できるようしっかりと打ち合わせをしたい。
				認定こども園 湊川短期大学 附属北摂中央幼稚園	○兵庫県 ・新任研修 ・子育て支援研修(オンライン) ○三田市 ・キャリアアップ研修 ○湊川短期大学 ・キャリアアップ研修 ○私立幼稚園協会 ・研究部会 ・公開保育参加 ○キンダーカウンセラーとのカンファレンス ○公開保育後のカンファレンス ○園内研修	・新型コロナウイルス感染防止対策によるオンラインも減少し、実際に研修を受ける機会が増えてきた。 ・子育て支援研修については、オンラインのため、参加しやすく予定通りの研修を受けることができた。 ・キャリアアップ研修についても意欲的に参加し、1、2年目以外は4分野受けることができた。 ・他園の保育を実際に見ることができた。 ・園内研修については、計画的実施できた。	・対面の研修が増えると保育後の時間の制約があったり、自家用車がある職員に偏ってしまうことがある。 ・他園の公開保育については、担任は保育があるため希望する職員すべてが参加することが難しい。 ・園内研修については、一日に2クラス行ったことで見学時間や対象クラスの見学人数にばらつきができた。 ・キンダーカウンセラーについては、保護者相談が少なかった。また、園児観察後に担任とのカンファレンスの時間が十分にとれなかった。	・バランス良く研修に参加できるように、常に職員の研修内容を把握するようにしたい。 ・できるだけ公開保育に参加できるように副担やフリーの職員の配置を考慮していきたい。 ・園内研修クラスを1クラスとし、時間を決めることで集中して見学できるようにしたい。
				認定こども園 ふじ幼稚園	・三田市特別支援教育講座 ・三田市私立幼稚園連合会主催の研究部会 ・三田市人権を考える会(就学前部会) ・学校園所にかかる研修会 ・市内幼稚園連携推進事業 ・保幼小中連携研修 ・新任研修 ・園内研修 ・キャリアアップ研修	・様々な分野の研修に参加することで、保育技術を高めることができ資質の向上に繋がっている。 ・園内研修の実施を行うことで、互いの保育から気づくことも多く自身の保育を見直すことができる機会となっている。 ・オンラインで受講できる研修も増え、時間を有効に活用できるようになった。	・研修受講後は職員会議を開き、研修内容を共有できるよう取り組んでいる。 ・研修に参加できる職員が限られてしまう。	・研修で学んだことをまとめたレポートを職員間で共有するなど、さらに有効な活用方法を検討する。 ・会議以外の場でも、情報交換の場を持ち、より多くの保育知識を得ることができるよう取り組み、職員の資質向上に努める。 ・実技研修の充実を図る。
				認定こども園 三田あさひ幼稚園	・夏季休暇や週末等の実技研修がコロナ禍により軒並み中止となったが、オンラインでの研修は例年以上に参加することができた。 ・園内研修も積極的に実施し、園の保育の考え方を浸透させた。 ・私立幼稚園連合会主催の研究部会は例年通り各園と保育の情報共有を実施した。 ・三田市主催のキャリアアップ研修にも参加でき、保育園所の保育者と共に研修に参加することができ、多岐にわたった視点で学ぶことができた。	・資質向上につながった。	・実務の忙しさ、夕方まで園で保育していることを鑑みても、平日に市内および県内の研修会に参加は難しい。	・研修の時間の確保、日程の調整が必要である。 ・研修に参加したものが、参加していない職員に研修内容を報告する機会を多くすることが必要である。 ・研修は資質向上のために必要であるが、勤務時間内と出勤した際、他の職員を出勤させて預かり保育等を保育することとなる。
				認定こども園 三田さち幼稚園	・研修(マーチング・パラパルーン・ダンス・楽器等) ・保幼小中連携にて行われ会議に参加(相互理解・交流・幼稚園から小学校へスムーズに就学する研修) ・三田市私立幼稚園協会にて行われる研修 ・就学前部会における研修 ・キャリアアップ研修(三田市実施に参加) ・園内研修(救命救急・キンダーカウンセラーの先生による研修) ・特別支援教育の研修 ・新人研修 ・子育て支援研修参加 ・食物アレルギーの児童に関する研修(zoom研修含む)	・教諭が自主的に学びたい研修等に参加し、学んだことを園で情報交換・発表する。 ・園内研修では、キンダーカウンセラーの先生に日頃から質問したい事項について、様々なことを学び、今後の保育に役立てている。 ・幼小連携において、可能な限り小学校の先生とお話をする機会を増やし、連携を深めた。 ・食育やアレルギーに関する講習会に参加し、知識を深めた。	お互いに協力し、研修する時間をより多く設けるよう取り組んだ。 Zoom研修を活用しても受けたい講習を探すのが困難であった。 夏休み期間の研修等も参加することはできるが、預かり保育等実施しているため、受講者が制限され、みんなで参加することができなかった。	重要な研修にできる限り参加できるように、ミーティングによりスケジュールリングする。 園内研修の機会を増やす。 各教諭同士での研修内容の情報交換(園内研修会)がもっとできるようにし、様々な面で保育に生かせるようにしたい。 パソコン等で共有化することで、ファイルを作成し、研修の内容を共通把握することをさらにすすめていくことが重要である。
三田つつじが丘認定こども園	・新規採用教員研修 ・マナー研修 ・三田市教育委員会主催の各種研修会に参加(キャリアアップ研修、保育課題サポート事業研修、保幼小中連携推進研修会、中学校区連絡会、特別支援教育研修会、就学前部会、特別支援教育研修等)	研修に参加し保育の技術だけではなく知識を得る事で自分の力とする。	・研修参加後の研修報告書を回覧しているの、全職員が共通理解できるように工夫している。 ・自己向上心を持ち、様々な研修に参加していく。	・知識、技術習得の為、より沢山の職員が研修に参加する。その為に保育体制を整える。				

★第2期子ども・子育て支援事業計画 事業別評価シート (認定こども園記載用)

基本目標 I すべての子どもの健やかな成長を応援するまち

幼稚園・認定こども園名	私立幼稚園・認定こども園 集約分
-------------	------------------

参考資料

1-1 豊かな心、生きる力を育む教育・保育をめざします  
(1)就学前教育・保育の充実

番号	項目	対象	これまでの取り組み	園名	令和4年度の取り組み内容	取り組み・評価	実施上の課題	改善すべき点と改善策
6	各種研修事業	幼稚園、認定こども園、保育所	課題に応じた保育技術の向上や幼児教育の充実等を図るため、保幼の合同研修、市立幼稚園が実施する研修・研究会、国や県主催の研修について情報提供等を行う。	三田けやき台認定こども園	○新規採用教員研修 ○マナー研修 ○三田市教育委員会主催の各種研修会に参加 キャリアアップ研修、保育課題サポート事業研修、保幼小中連携推進研修会、中学校区連絡会、特別支援教育研修会、かるがも園、こども療育講座 就学前部会等に特別支援教育研修等の研修に参加し保育の技術だけではなく知識を得る事で自分の力とする。	様々な研修に参加出来るように努め、職員の質の向上、自分の幅を広げると共に自園の保育力UPにつなげている。	・キャリアアップ研修は、希望する職員が受講できると良かったが、人数制限があり、申し込みが、残念だったので、これから受講できるように願う。また、より様々な研修が受けられる企画を願う。 ・研修参加後の研修報告書を回覧しているの、全職員が共通理解できるように工夫している。 ・日々、慌ただしい日常が続く中、自ら時間を作り、自己向上心を持ち、様々な研修に参加していく。	・園内で偏った研修に参加しがちなので、知識、技術習得の為、より沢山の研修に参加する。 ・キンダーカウンセラーからの園児や保護者対応の参考が役立っている。カウンセラーもその子どもの様子や実態を見た上でご指導くださるので助かっている。
				認定こども園 やよい幼稚園	○新規採用教員研修 ○三田市教育委員会主催の各種研修会 ・キャリアアップ研修 ・保育課題サポート事業研修 ・保幼小中連携推進研修会 ・各中学校区の連絡会 ・特別支援教育 ・就学前部会 ○兵庫県私立幼稚園連合会研修 ・子育て支援研修 ・近畿地区研修大会(オンライン) ・キンダーカウンセラーによる訪問職員研修 ・教員研修大会(オンライン) ・主幹保育教諭研修 ○三田市私立幼稚園連合会 ・研究部会 ○夏休みを利用して実技研修 ○園内研修 ・特別支援研修 ○公開保育 ○かるがも園 こども療育講座 (オンライン)	・コロナ禍においても、可能な限りの研修会に参加することができた。その上、オンライン研修が多かったので、多くの保育教諭が園と一緒に研修を受けることができた。 ・公開保育は、大学の講師、近隣小学校校長・教諭、自治会、市内幼稚園教諭の参加を得て実施することができ、多くの学びと評価をいただけた。	・園内研修の充実	・研修受講後の職員での共有
				認定こども園 湊川短期大学 附属北摂学園 幼稚園	○兵庫県私立幼稚園協会 ・新任研修(リモート)・通所研修 ・教員研修大会分科会参加 ○三田市 ・キャリアアップ研修 ・三人考(就学前部会) ・保幼小中連携 ○その他・公開保育	・配慮のいる子どもについての意見交換や、情報共有等をする時間を多くもつようにした。 ・昨年同様、カウンセラーの先生に継続して園児をみてもらうことで、サポート方法をアドバイスしてもらえた。 ・公開保育研修会では、近隣園より参加していただいた先生方から意見や感想を述べていただき、また、短大講師の助言もあり、多くの学びある時間となった。	・今年度もコロナ禍であったので、神戸や大阪等で毎年開催される運動あそび研修には参加できなかった。 ・各園2月の行事がある中での公開保育を開催した為、外部からの参加者は、少なかった。	・園内研修の内容を検討し、定期的に行えるよう計画する。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止の為に衛生面について、今後も徹底が必要。
				認定こども園 神戸親和大学 附属親和幼稚園	①兵庫県の研修会(子育て支援研修・新任研修等) ②兵庫県私立幼稚園協会(地区別研修発表) ③全国認定こども園園長研修会 ④三田市(キャリアアップ、保育課題サポート、三人考、巡回相談、かるがも園研修会など) ⑤三田市私立幼稚園協会(研究部会等) ④公開保育研修会(参加・実施) ⑤関係園・大学との研修会 ⑥園内研修(各クラス研究保育、保育内容、安全教育、特別支援教育、人権教育の研修等) ⑦自主研修:各自で学びたい研修会を選択し研修を受ける	・少しずつ研修会が実施され、参加できるようになってきた。主体的な研修になるように園内で研修グループを作り、研修会を企画し、実施することを初めて行った。手探りではあったが、4つのグループで実施することが出来た。企画をすることで、何をどんな風に考え合うことが出来、学びにつながっていった。資質向上に向けて学びの機会が増えたことは保育の中にも活かされていった。 ・研究保育を通しては保育を深く考えるきっかけになり、より良い保育幼児との関係性を探っていくきっかけになり保育の工夫に活かされていっていると思う。	研修時間をどう確保していくか。	・研修会に参加し学んだことを報告し合い園全体への学びにすることがまだ十分ではない。情報共有できる環境、時間の確保を工夫していく必要を感じている。 ・園の課題、保育の課題等を明確にし全体で、一人一人が自分のこととして考えていけるようカンファレンスを十分にとれるよう工夫していく。 ・他園の保育、他の人の保育を見る機会を多く作ってきたい。
				ゆうかりフレンズ	・オンライン研修やZoom研修 ・キャリアアップ研修 ・リスクマネジメント研修 ・救急対応について ・特別支援研修 ・保育リーダー研修 ・保育サポート研修 ・園内研修など	昨年同様、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンライン研修やZoom研修を活用した。また、少しではあるが、外部研修を受ける機会を増やすことができた。	保育時間に研修があるため、人数に限られる。	研修内容を他の職員に周知することが難しかったので、工夫をする。
				若草幼稚舎	・キャリアアップ研修への参加 ・Zoomでの研修への参加 ・療育支援保育士による園内研修の実施 ・心肺蘇生、AEDについての園内研修の実施 ・保育について、テーマを決めての意見交換	・職員が自ら学びたい研修は研修費と交通費を園が全額負担し、職員一人ひとりの学びを応援した。また、希望する日に研修が受けられるようにした。 ・療育支援保育士による研修ではより専門的な知識を学ぶことができた。 ・意見交換の場においてはお互いが成長し合えることができた。	・研修参加への積極性に欠ける。 【理由として考えられること】 ・自分だけ研修に参加していいのかわからない状態になっている。 ・キャリアアップ研修が日数と時間を大幅にとられるため、それだけで研修に対してお腹いっぱい状態になっている。	園から研修参加(出勤扱い)を声掛け、学ぶことの大切さや喜びを感じ、それを他の職員へ伝播できるようにする。

★第2期子ども・子育て支援事業計画 事業別評価シート (認定こども園記載用)

基本目標 I すべての子どもの健やかな成長を応援するまち

幼稚園・認定こども園名	私立幼稚園・認定こども園 集約分
-------------	------------------

1-3 親と子の心と身体の健康づくりを応援します  
 (2) 乳幼児期の子どもと保護者の健康づくりの推進

番号	項目	対象	これまでの取り組み	園名	令和4年度の取り組み内容	取り組み・評価	実施上の課題	改善すべき点と改善策
58	食に関する指導、啓発事業	幼稚園、認定こども園、保育所の児童及び保護者	公立幼稚園においては、望ましい食習慣の形成を図り、子どもたちの「生きる力」を育むため、食に関する指導の実施や食に関する情報の提供等を行う。また、地元の新鮮で安心な農作物の利用を進める。保育所においては、自園調理による完全給食を実施し、離乳食や食物アレルギーやアトピーにも対応した給食づくりを実践する。保育所給食部会において、各園の調理師に対して、統一献立を作成する等栄養指導、食育の啓発指導等を実施する。	認定こども園 湊川短期大学 附属北摂中央幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> <li>アレルギー対応を個別に行い、代替(場合によっては除去)で対応をしている。</li> <li>園児のかかりつけの医師よりアレルギーによる診断書を提出してもらい、保護者、委託業者、園と連携をはかっている。</li> <li>夏野菜を中心に栽培から収穫、調理を行う。</li> <li>5歳児は包丁の使い方や野菜の栄養について学ぶ機会を設けているが、感染症が心配されたため、例年通りとはいかなかった。自分で調理したものを自分で食べる、という方法にして出来る範囲で実施した。</li> <li>季節の行事に応じたクッキングや給食メニューを取り入れる。(例～七夕、お月見団子作り、おもちつき、節分、雛祭り等、旬の食べ物を使ったメニュー)</li> <li>給食だよりや献立表にて、旬の食べ物を伝えたり、食と健康についての話題・メニューの由来、また栄養について知らせる。</li> <li>地産地消を取り入れ、三田牛、三田かぼちゃ、味噌等地元の食材を堪能する日も設けた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アレルギー対応については給食業者と密に打ち合わせをする。対象児の名前付きのトレーと容器で誤配をしないように工夫している。保護者との連絡を密にとり安全面に十分配慮した。給食室から出すときの確認を怠らず、徹底して配ることができた。</li> <li>自分たちで育てた野菜ということで苦手であっても少し食べることができるようになったり、野菜を作ることの大変さを知ることができたりと良い経験となった。</li> <li>自分たちで調理をすることで感謝の気持ちを持ったり、家庭でも手伝ってみようとする気持ちがあがった。</li> <li>昔からの行事や習わしなどに興味をもつことができた。</li> <li>栄養士作成の献立表のもと、バランスの良い食事の提供ができた。</li> <li>残食の量や味付けに関しては、その都度栄養士と園とで意見交換ができ、良い関係性が築けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アレルギー疾患児が年々増えてきている。メニューについても工夫が必要になってきた。</li> <li>栽培については夏野菜限定になってしまうことが多かったが、今年度は冬野菜を育てているクラスもあった。園児と栽培をしながら、職員も様々な事を知ることができ、良い経験となっている。</li> <li>クッキングでは包丁を使うため、安全面について十分な配慮が必要である。コロナの影響で経験が少ないため、いつも以上に気を付ける必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調理業者との連携を十分にとっていく。また、保護者との話も定期的に行うのが望ましい。3園合同会議は、1回しか実施できなかったため、次年度はもう少し回を重ねたい。</li> <li>養護教諭、担任、調理員はアレルギー対応や処置の仕方、宗教食等、個々の特性を十分把握しているが、預かり保育の場面において、不十分な時があった。預かり保育の職員や非常勤職員にも周知させていきたい。</li> </ul>
				認定こども園 湊川短期大学 附属北摂中央幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> <li>自園調理の給食により、温かいうちに配膳、喫食ができる。</li> <li>栄養士による園独自の給食メニューを作成している。三田市の地産地消の取り組みから三田ピーマンのじゃこ炒め・三田黒豆味噌の味噌汁を作ってもらった。着ぐるみや栄養士の食育指導講座も実施できた。保護者への給食参観はコロナ対応のため、中止した。</li> <li>アレルギー児に対しては、給食委託業者、園、保護者間で連携をとる。また、医師の指示のもと、代替え食の提供を行った。</li> <li>アレルギー疾患生活管理指導表を作成し、医師による診断書として統一した。</li> <li>夏野菜の栽培を行い、自分たちで育てたり、実際に収穫し食べたりした。</li> <li>年長児を対象にクッキングを行い、包丁の使い方を知ったり、食材の栄養について学んだりした。</li> <li>年長児は田植え・稲刈りを実施できた。</li> <li>年中児はサツマイモのなえ植えは行えたが、サツマイモ掘りは獣害のためできなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年度途中で園の栄養士が退職したが、委託業者の栄養士と今まで以上に連携を図り、スムーズに取り組みめた。</li> <li>今年度も地産地消のメニューを取り入れ園児にも好評であった。また、地域の特産についても知る機会になるので、今後も継続していきたい。</li> <li>アレルギー問診票対応児にも、個別シートを作成し丁寧な対応を心がけた。しかし、急な変更や出席の確認時に対応ができず、誤食があった。</li> <li>野菜の栽培では、年長児が2学期も行うことができた。今後は他学年も年間を通して栽培を行えるように計画を立てていきたい。</li> <li>サツマイモ掘りをできなかったのは残念だが、園児には栽培の大変さや動物との関わりについて等知る機会になり良かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地産地消メニューについては年に1回のためもう少し機会を増やせたら嬉しい。</li> <li>アレルギー児の誤食については、自分に対応しなければいけないという思いがあるため、一人だけでなく複数人での確認を徹底できるようにしたい。また、全職員がどのように対応していくか共通理解を深めるようにしたい。</li> <li>給食、おやつとも除去食や代替え食になる。おやつについてはできるだけ同じ物を提供したいがアレルギーの種類も増え対応が難しくなっている。</li> <li>栽培を行うだけでなく、どうすれば大きく、おいしく育つかや獣害に遭わないための方法など職員自身も知識として知っておくと良い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>旬の食材や、地域の特産について知り、委託業者と情報共有しつつメニューに取り入れていけると良い。</li> <li>アレルギー児への対応として口頭だけでなく見て分かるように図式化したり、一覧表も色づけするなどして分かりやすくしている。</li> <li>食のこだわりや偏食などで給食がすすまない園児が多数いる。個別対応で少しでも興味をもって食べてほしいが難しい面もあった。家庭との連携を取りすすめていきたい。</li> </ul>
				認定こども園 ふじ幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> <li>アレルギー疾患のある園児への対応食の提供を行っている。</li> <li>食に関する教育活動(手遊び、絵本、職員による劇等)を保育に取り入れ園児が食についての知識を得る機会を設けている。</li> <li>食育カードを作成し、全園児に配布している。カードには保護者が体温、睡眠時間、朝食摂取の有無や排便の有無を記入、毎日持参し登園している。定期的に集計結果をグラフにして保護者に配布。集計表や、献立表に食に関する記事や情報を掲載している。</li> <li>夏野菜や黒豆の栽培やぶどう狩り、芋ほりの体験も行っている。</li> <li>誤飲防止に努め、よく噛んで食べることの大切さを伝えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>給食委託業者とのメニューやアレルギー対応などについての話し合いを多く設け、連携をより深めることができた。</li> <li>食育カードを記入することにより、子どもの体調の変化を把握しやすくなっている。</li> <li>今年度もコロナ禍にあり、給食委託業者と子どもたちとの交流の機会を持つことができなかった。</li> <li>繰り返し確認を行うことで、子どもたちがよく噛んで食事を進める姿がみられるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>好き嫌いや偏食の子どもが増えてきている。保護者によっては子どもの負担になることを避けたいと考えられている方もあり、指導の難しさを感じている。</li> <li>子どもの姿と睡眠時間の関係が大きいことが感じられるが、家庭環境などにより改善が難しい子どももいる。</li> <li>コロナ禍にあり、黙食に取り組んでいる。そんな状況でも少しでも楽しい雰囲気ですぐに食事ができるような歌を流すなどの配慮を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報の提供を行い、保護者の意識も変えていきたい。</li> <li>給食を食べる時間の設定(終了時間)</li> <li>量の調整</li> </ul>
				認定こども園 三田あさひ幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> <li>自園調理の給食活動を行う上で、日常的に食育教育の推進を図ることが出来た。</li> <li>例年行っていた園庭栽培の野菜を用いたクッキングはコロナ禍において実施できなかった。</li> <li>例年行っていた保護者の給食試食会はコロナ禍において実施できなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>給食だよりや、日々の指導の中で意識付けができ、食習慣の啓発が出来た。</li> <li>完全自園調理であり、代替メニューもそれぞれのアレルギーに対応しているため、保護者からも非常に喜ばれている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭と連携する中で、各家庭によって意識の差が大きいこと(食事のマナー、お箸の使い方、姿勢、座り方等はすべて家庭教育であるべき)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食育や給食だよりなどで、具体的な手法を伝えていく。</li> </ul>
認定こども園 三田さち幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> <li>クッキング 子どもたちで野菜を切ったり、炒めたり、包んだりし、クッキングを楽しむ。コロナ禍の中、実施回数は減ったが、感染拡大防止に配慮しながらできることを考えて実施。</li> <li>野菜の栽培(ピーマン・トマト・なす・さつまいもなど)</li> <li>絵本・紙芝居・エプロンシアターによる食育に関するお話(好き嫌いをしない・いろいろな食べ物の栄養の話など)</li> <li>おいもほり(園内で栽培し収穫。土に触れ、作物の実りに感謝する)</li> <li>野菜のスタンプ、野菜の絵を描くなど。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度、数少ないクッキングの中で、いろいろな食材や料理の作り方などに興味を持つことができ、嫌いだった野菜も実際料理をして食べてみることで少しずつ好きになることができた。</li> <li>野菜の栽培では子どもたちで水やりをして成長を楽しむ中でどういう風に成長するのか何色の花が咲くのかなど体験のなかで知ることができた。</li> <li>収穫した野菜を使って料理を作り、花をすりつぶして色水遊びを楽しみ、その経験から家でも料理を作ってみようという意欲がわき、家庭でも保護者と一緒に料理を楽しむことができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食物アレルギー等で食べられない食材があり、代替の食材を使ったり、抜いた物を作る必要や、その食材が入っていないメニューを考える必要がある。</li> <li>コロナ感染に配慮しながら、行うことへの難しさを感じる。</li> <li>小さい学年の園児も安全に調理を行えるよう、調理器具の扱いに注意する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>旬の食材を使ったメニューや年間の行事にちなんだメニューを考え、季節を感じさせたい。</li> <li>おいもほりに行かない低年齢のクラスやおいもほりに参加できなかったお子様のために、園でおいもほりを作り、園内でお芋ほりを楽しむことを引き続き取り組んでいく。</li> <li>多くの野菜の種をまき、子ども達と一緒に成長を楽しみたい。水やり当番を設け、クラスごとの畑を設け、各クラスに責任感をもたせる。</li> </ul>				

★第2期子ども・子育て支援事業計画 事業別評価シート (認定こども園記載用)

基本目標 I すべての子どもの健やかな成長を応援するまち

幼稚園・認定こども園名	私立幼稚園・認定こども園 集約分
-------------	------------------

1-3 親と子の心と身体の健康づくりを応援します  
(2) 乳幼児期の子どもと保護者の健康づくりの推進

番号	項目	対象	これまでの取り組み	園名	令和4年度の取り組み内容	取り組み・評価	実施上の課題	改善すべき点と改善策
58	食に関する指導、啓発事業	幼稚園、認定こども園、保育所の児童及び保護者	公立幼稚園においては、望ましい食習慣の形成を図り、子どもたちの「生きる力」を育むため、食に関する指導の実施や食に関する情報の提供等を行う。また、地元の新鮮で安心な農作物の利用を進める。保育所においては、自園調理による完全給食を実施し、離乳食や食物アレルギーやアトピーにも対応した給食づくりを実践する。保育所給食部会において、各園の調理師に対して、統一献立を作成する等栄養指導、食育の啓発指導等を実施する。	三田つつじが丘認定こども園	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自園調理による完全給食を実施。温かいものは温かいうちに、冷たいものは冷たいうちに、食事を提供している。</li> <li>・食物アレルギーや、個々の離乳食の進捗に合わせた給食の対応をすることで、どの子にも乳幼児期の子どもの健康作りの推進を図った。</li> <li>・園庭に栽培コーナーを作り、畑や花壇に夏野菜やさつま芋の栽培をした。できた野菜は子ども達と一緒に収穫し、給食の食材の一部として提供した。</li> <li>・ホットケーキパーティーを行うことが出来た。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自園調理の為、調理している現場を見学する事も出来た。</li> <li>・子ども達も無理なく様々な食材や献立を食べることが出来た。</li> <li>・自分たちで作った野菜は特別なようで、普段は野菜が苦手な子どももすすんで食べることが出来た。</li> <li>・職員が一人一人にあった適切な量を配膳する等、工夫することで、少しずつ、食事に対して興味を持てるようになった。</li> <li>・季節ならではの食材を使用。次年度は、黒枝豆のさやもぎ体験、芋ほりの計画をしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野菜の栽培や、食物アレルギー・離乳食対応など職員の知識を深めることも大切だと考える。その知識を栽培や食育を通して、子ども達にも伝えていきたい。</li> <li>・今回は職員が作るのを見学する子ども達だったが、来年は調理を少しでも体験できたらと思っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症対策のため、食品を扱ったり、食べたりする環境を適宜変更しながらも、何が出来るかを考え、工夫しながら子ども達に食事のマナーを伝えたり、食育を進めていく必要がある。</li> <li>・クッキングの体験が出来る様、工夫する。</li> </ul>
				三田けやき台認定こども園	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自園調理による完全給食を実施している。温かいものは、温かいうちに、冷たいものは、冷たいうちに食事を提供している。</li> <li>・食物アレルギーに対応した給食作りをする事で、乳幼児期の子どもの健康作りの推進を図っている。</li> <li>・離乳食の対応</li> <li>・サツマイモ、ジャガイモの収穫。</li> <li>・夏野菜の栽培を行い(トマト・きゅうり)自分たちで育てたり、実際に収穫し食べたりした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養士作成の献立表のもと、栄養の偏りや食材の偏り、配膳の工夫に気をつけることが出来た。</li> <li>・職員が一人一人にあった適切な量を配膳する等、工夫することで、少しずつ、食事に対して興味を持てるようになった。</li> <li>・季節ならではの食材を使用。次年度は、黒枝豆のさやもぎ体験、芋ほりの計画をしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農作物作りが場所の確保が難しく、出来る作物に限られるので、関心が高まる様に努める。職員の知識も深める事が大切。</li> <li>・クッキング等をしたが、アレルギー児が多くなっている現在、安全を重視し、進まない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビニールハウスなどと農作物が育つ現在、スーパーでも、季節ならではの食物が分りにくいので、子ども達に季節の野菜を伝えていきたい。</li> <li>・食材のこだわりが強い園児が増えており、対応が難しい。保護者も食べられないものがあるという意識があるので、バランスよく食事をとることが大切な事を発信していきたい。</li> </ul>
				認定こども園やよい幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> <li>○開園以来の自園調理による給食を実施、温かい食事</li> <li>・食材については地場野菜を使用</li> <li>・個別にアレルギー対応した給食づくり</li> <li>○保護者に食に関する理解を図る</li> <li>・給食参観は中止</li> <li>・毎月の給食日より食に関する内容、献立やおやつレシピ紹介</li> <li>・朝ごはんの大切さと協力依頼</li> <li>○園庭の畑で、野菜の栽培・収穫</li> <li>○畑で、夏野菜・さつまいも・ジャガイモを栽培・収穫・給食の食材に</li> <li>○田植え前の水をはった田んぼで遊ばせてもらい、稲の生育に興味関心を持つ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○早寝早起き朝ごはんを親にも子にも推奨、実践</li> <li>○給食の献立レシピ・おやつレシピを喜ばれる</li> <li>・給食メニューのレシピを聞かれる保護者もあり、食への関心にこちらも喜ばせてもらうことがある</li> <li>○手作りおやつが子ども、保護者から人気である</li> <li>○小学校の畑を貸してもらえ、小学校に行く機会も増えた</li> <li>○アレルギー児の誤配・誤食がないように担任・保護者・給調理員等の連絡・連携を徹底するよう努めた(エビイベント参観があるので、アレルギー発作時の園内役割分担表作成)</li> <li>○給食時、パーティション使用の上、子どもも黙食を意識している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アレルギー児については、保護者と毎日確認ノートを作成し、双方徹底して意識すると同時に提供する側の共通確認し、誤食のないように徹底する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食に関心を持つよう給食の食材に興味を持つよう食育教育の機会を増やす。</li> <li>・職員のエビイベント研修を実施する。</li> </ul>
				認定こども園 湊川短期大学 附属北摂学園 幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自園給食の実施、季節感のある献立や、あたたかいものは、あたたかくいただける美味しさを子どもたちも感じ、毎日給食を楽しみにしている。アレルギー対応食、代替え食の実施。園児が野菜、米を育て栽培し収穫し調理し食するまでの過程を体験する。</li> <li>・各クラスで野菜の苗や種を植え、観察し、収穫をするまで大切に育てる。</li> <li>・自園の畑で植えたさつまいもを収穫し、集めた落ち葉を使ってやきいもを体験する。</li> <li>・地産地消の取り組みとして三田牛の牛丼を食べたり、栄養士の食育指導講座も行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調理の様子を近くで子どもも見ることができ、匂いを感じたり、食材を知ったりできる。</li> <li>・野菜の栽培にどのクラスも成功し繰り返し収穫を楽しみ食することができた。</li> <li>・アレルギー対応の情報共有。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・給食の献立で季節感を意識してもらったりしているが、費用の事もあり地産地消を何度もという事は難しい。</li> <li>・クッキングを今年度も見送った。内容は検討できるが、消毒や飛沫防止等の策に時間を要する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染拡大防止の為、皆で食べるという行為に関して、飛沫防止パーテーションを使ったり、間隔をあげたり、人数を分散したりという生活に慣れているが、黙職も自然に身につけているが、皆で食べる楽しさや嬉しさを早く感じられる日になってほしい。</li> </ul>
				認定こども園 神戸親和大学 附属親和幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部搬入給食で、卵、牛乳、エビ、カニの除去食及び代替え食を提供している。</li> <li>・園の畑でピーマン、ミニトマト、オクラ、スイカ、玉ねぎ、ジャガイモ、サツマイモ、大根などを栽培し、子どもたちと一緒に水やりをしながら成長を観察し、収穫した。</li> <li>・アレルギー対応表を作成し、事故のないように全職員で情報共有した。</li> <li>・阪神北広域こども救急センターより講師を招聘し、『こどもの事故予防と応急手当・食物アレルギー』について講話を聞き学ぶ機会になった。</li> <li>・三田消防本部の方によるAED講習会を実施。</li> <li>・三田市の特産「たんくろう」枝豆の親子さやもぎ体験。(満3歳・年少)</li> <li>・JAの畑でサツマイモ堀りを体験する。(年中・年長)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちで植えたり、育てたりした野菜を収穫することで、食物に興味関心を持つことが出来た。</li> <li>・サツマイモについてはふかし芋にしたり、デイキャンプ(年長)で焼き芋にしたりして食育に繋がった。</li> <li>・アレルギー表を作成し情報共有したことで、誤配、誤食のないように連携を図った。</li> <li>・アレルギー対応や応急手当など研修することで正しい情報を得て、実践に活かせるようにしている。</li> <li>・地域の特産物を知る機会となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栽培物に対して教師自ら興味を持ち、育て方についても、知識をもって栽培にあたれるようにしていきたい。</li> <li>・継続的に世話や観察できるように環境作りをしていく。</li> <li>・アレルギーに関してはヒヤリハットがないように常に注意喚起していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園児、職員が共に学び合えるような環境を工夫していきたい。</li> <li>・アレルギー、応急手当については常に最新の情報を得られるよう学んでいく必要性を感じているので、定期的な研修を実施し、情報共有できるような環境を工夫していきたい。</li> </ul>
ゆうかりフレンズ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節の野菜を育て、成長過程を観察する。</li> <li>・クッキング(4、5歳児のみ)</li> <li>・さやもぎ体験</li> <li>・4、5歳児に向けて、食品栄養分類表に分類提示</li> <li>・アレルギー食、離乳食など個々に合わせた調理の提供</li> <li>・食育日より、給食、おやつレシピ配布</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>回数に限られたが、クッキングを再開できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍のため、予定していた体験型の食育活動が中止になってしまった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍でも対応できる活動を考え、食に興味や関心が持てるように努める。</li> </ul>				



★第2期子ども・子育て支援事業計画 事業別評価シート (認定こども園記載用)

基本目標 I すべての子どもの健やかな成長を応援するまち

幼稚園・認定こども園名

私立幼稚園・認定こども園 集約分

1-3 親と子の心と身体の健康づくりを応援します  
 (2) 乳幼児期の子どもと保護者の健康づくりの推進

番号	項目	対象	これまでの取り組み	園名	令和4年度の取り組み内容	取り組み・評価	実施上の課題	改善すべき点と改善策
58	食に関する指導、啓発事業	幼稚園、認定こども園、保育所の児童及び保護者	公立幼稚園においては、望ましい食習慣の形成を図り、子どもたちの「生きる力」を育むため、食に関する指導の実施や食に関する情報の提供等を行う。また、地元の新鮮で安心な農作物の利用を進める。保育所においては、自園調理による完全給食を実施し、離乳食や食物アレルギーやアトピーにも対応した給食づくりを実践する。保育所給食部会において、各園の調理師に対して、統一献立を作成する等栄養指導、食育の啓発指導等を実施する。	若草幼稚園	①食事の大切さやマナー ②明るく楽しい食事の雰囲気 ③ランチョンマットの制作 ④子ども達による配膳 ⑤行事にちなんだ献立内容 ⑥夏野菜やさつま芋の栽培 ⑦収穫した野菜を使ったクッキングや焼き芋パーティ ⑧郷土料理の給食：月1回 ⑨食体験：月1回(給食のお手伝い) ⑩カラークッキング(給食献立) ⑪もちつき大会 ⑫一人ひとりに合った離乳食や除去食対応の個別献立 ⑬お買い物やクッキング活動	旬や国産の食材、無添加や薄味にこだわった味つけを大切にした献立内容 ・幼児クラスではランチョンマットを制作、また職員が個人マークや名前を刺繍した。特別な日にはランチョンマットを使いあたたかな家庭的な雰囲気を作っている。 ・各クラスが1年を通して、お手伝いやお買い物、クッキングを行うことができた。また行事食や食体験を通し「食」に興味、関心、経験を深めることができた。	・無農薬の農作物を使用したい。 ・農業大国である以上、地元だから農作物が安心とは思えない。	

★第2期子ども・子育て支援事業計画 事業別評価シート (認定こども園記載用)

基本目標Ⅱ すべての子育て家庭を応援するまち

幼稚園・認定こども園名	私立幼稚園・認定こども園 集約分
-------------	------------------

2-1 必要なときに必要な子育て支援が受けられるようにします

(1) 子育て中の親子の出会いのきっかけづくりの推進

番号	項目	対象	これまでの取り組み	園名	令和4年度の取り組み内容	取り組み・評価	実施上の課題	改善すべき点と改善策
69	地域子育てステーション事業	就学前の子どもとその保護者	子育てに対する豊富なノウハウ・経験をもつ地域資源である保育所・幼稚園・認定こども園が子育て支援事業を実施する。●実施場所 保育所・認定こども園・私立幼稚園	認定こども園 湊川短期大学 附属北摂第一幼稚園	・すこやか広場の開設 ・毎月1回の園庭開放	・事業として定着しており、毎回参加される方が増えてきた。また、保護者同士の情報交換の場となっている。 ・園児の兄弟関係の参加も多目立つ。 ・園に来ることに慣れているため、入園後慣れるのが早い。	・駐車場の空きスペースに限りがある。 ・入園前に育児相談をされる方がいた。いつでも対応できる受け入れ態勢や、広報に努めたい。	・育児相談ではなくても、保護者同士または保育教諭といっしょに子育てについてや世間話等、気兼ねなく交流ができるような工夫をしていきたい。(感染状況にもよる)
				認定こども園 湊川短期大学 附属北摂中央幼稚園	○園庭開放 ・毎月2回、土曜日の10:00~11:00の時間帯で、親子で参加し園庭で自由に遊んだ。	・参加人数は、平均2名ほどではあったが、親子で楽しく遊ぶ姿が見られた。	・園だよりや市の広報でのお知らせであるが、知らない方もいるため、参加人数が少ない。	・夏場の暑い時期も同時間であったため、気温などを考慮して時間帯をずらしても良かった。
				認定こども園 ふじ幼稚園	・2歳児未就園児クラス ※満3歳児入園手続き完了者対象 (月~金 9時~11時20分) ・1・2歳児未就園児親子クラス※1歳6か月に達した翌月より参加可能 (木曜日実施 月2~3回)	・保護者に園の様子や取り組みを知っていただくことができる。 ・保護者同士の情報交換や友達作りの場にもなっている。 ・未就園児クラスに通うことにより、3歳児クラス入園後スムーズに生活することができている。	・遠方から参加される方が増えているため、駐車場の確保の問題が生じている。 ・満3歳児クラスのクラス運営では、配置基準以上の職員数が必要となっている。	・開催の日程調節。 ・近隣有料駐車場を利用。 ・コロナ禍前のように園行事への参加を検討。 ・新たな参加者を増やすことが出来るような情報公開方法を検討する。
				認定こども園 三田あさひ幼稚園	・週2回、親子登園日を設け、子どもにとって楽しい保育、保護者にとっては子育てを語る時間、また園職員との子育て相談を実施した。 ・保護者にとっても園の雰囲気や保育方針を見て感じる事が出来、入園につながる事業となりつつある。 ・親子登園のクラスを設けているが、それ以外にも地域に対しての子育て支援事業(子育て相談)を行っている。 ・コロナ禍で未就学や幼い子どもを集団に入れることに躊躇する保護者が多かった。	・参加人数が激減した。 ・参加された保護者からは高い評価を得ることができた。	・年々、参加者が減っていることを鑑み、現状の方法は地域のニーズとミスマッチであると感じた。	・利用者数が減ってきているので、新たな子育て支援の仕組みが必要である。
				認定こども園 三田さち幼稚園	2、3歳の未就園児の親子対象のプログラム ・「さくらんぼクラス」月1回第3水曜10時より実施(母の日プレゼントやクリスマスリース作り等の制作・リズム遊び・運動遊び・絵本の読み聞かせ・お正月遊び・エプロンシアター等) ※製作では親子でおひなさまや水遊びのおもちゃも作り、ご家庭でも楽しんでいるようである。	今年度は昨年度に比べ開催回数は増えたが、開催時には感染対策をしっかりと行なった。「さくらんぼクラス」は、小さなお子様連れの方には下の子を預かったり、布団を用意するなどして楽しんでいただいている。保護者同士のコミュニケーションが取れるような機会を設けているため、参加希望者は毎回定員数まで参加されている。	「さくらんぼクラス」では、絵本や製作やエプロンシアターなど昨年と同じものや似たようなものにならないようにする必要がある。 今年度も換気をこまめに行いウィルスなどの感染予防に努めるもことに労力が必要となっている。	コロナ感染拡大防止に引き続き取り組む必要があり、検温・アルコール消毒などの徹底を行う。 さくらんぼクラス用の絵本棚やおもちゃを用意し、1歳の子も安全に楽しんでもらえるように、色々な場面を想定し配慮して実施する。 さくらんぼクラス用のクレヨンやのり、ハサミを20名分用意し、自由に製作を楽しんでもらう。使用後の消毒も徹底する。
				三田つつじが丘認定こども園	・SUNSUNキッズ(未就園児教室)の実施。 ・子育て支援日の設営。	・入園前に親子又は、子どものみで幼稚園に来ることによって親子とも慣れることが出来るので、喜ばれる。	・感染症対策などで、計画が立てづらかったり、計画していても実施できないものもあった。	・感染症対策をしながら実施できる方法を工夫する。 ・沢山の方に知って頂けるよう、周知していく。
				三田けやき台認定こども園	○親子登園クラス(2月中旬に申込みした方) ・1歳児親子登園 年間約20回程度(木曜日) ・2歳児親子登園 年間20回程度(木曜日) ・募集は、1月に在園児通して発信。(2月中旬受付、5月開講) ・保育経験豊富な職員、子育て経験豊富な職員が担当し、親子の触れ合い、子どもの触れ合い、子育て相談、情報交換の場を提供しながら行った。 ○0・1歳のSUNSUNBABYを開講	例年、入園前に、親子又は、子どものみで幼稚園に来ることで、親子共々、慣れる事が出来るので喜ばれる。 ・家庭では出来ない色々な遊びを体験できる(パラバルーン・絵の具遊びなど)ので、喜ばれる。	例年、幼稚園の行事との兼ね合いの場所の確保に困っている。	例年、家庭では出来ない遊びの提供が出来るように様々な物的環境を整える必要がある。
認定こども園 やよい幼稚園	○1歳児親子登園クラス(火曜日)と2歳児親子登園クラス(木曜日)を月2回開催し、実施日以外の火曜日、木曜日職員を配置して地域の乳幼児に園庭を開放 ○『やよいっ子広場』毎週土曜日の午前中、園庭開放を実施 ・地域の未就園児親子、在園児、小学生(コロナ禍で兄弟関係のみ)遊び場の提供 ・園講師の陶芸教室・英語であそぼう・運動あそび・書初め体験 地域の方に親子に折り紙・けん玉・木工クラフト工作等教えてもらう。 ・未就園児保護者に子育てや幼稚園に関する相談実施 ○印刷物、ホームページ、ようちえんネットで広報している	・在園児は勿論のこと、未就園児親子の利用が多い。 ・経験豊富な年配職員が毎回担当し、継続しての子育て相談を喜ばれ、お母さん同士のつながりもできた。 ・コロナ禍で多世代・異年齢交流の場の提供が困難であった。未就園児親子には、遊び場の提供と幼稚園での色々な体験をして喜ばれた。 ・新たに室内演奏楽団の方に来ていただく事が出来、クリスマス時で保護者の方に喜ばれた。	・駐車場の確保 ・多世代・異年齢交流の場の提供がコロナ禍で制限された。	・コロナ前のように、小学生にもあそび場の提供ができると良い。				

★第2期子ども・子育て支援事業計画 事業別評価シート（認定こども園記載用）

基本目標Ⅱ すべての子育て家庭を応援するまち

幼稚園・認定こども園名	私立幼稚園・認定こども園 集約分
-------------	------------------

2-1 必要なときに必要な子育て支援が受けられるようにします

(1) 子育て中の親子の出会いのきっかけづくりの推進

番号	項目	対象	これまでの取り組み	園名	令和4年度の取り組み内容	取り組み・評価	実施上の課題	改善すべき点と改善策
69	地域子育てステーション事業	就学前の子どもとその保護者	子育てに対する豊富なノウハウ・経験をもつ地域資源である保育所・幼稚園・認定こども園が子育て支援事業を実施する。●実施場所 保育所・認定こども園・私立幼稚園	認定こども園 湊川短期大学 附属北摂学園 幼稚園	○あいあいルーム 2歳以上の未就園児の体験遊びコース月3～4回実施 ○すこやか広場 毎月1回15:00～16:00 職員と未就園児親子で歌や、ダンス、製作、読み聞かせを楽しむ。 ○園庭開放 毎月1回15:00～16:00 園庭で自由に遊ぶ。	・参加人数は徐々に増えた。 ・保護者同士の交流の場になった。 ・なるべく室内で過ごす時間を減らし密にならないようにした。園庭で遊ぶ時間を増やした。 ・子育て相談に来られる人もあり、良い機会となった。	・今年度は事前予約必要にする事で、準備がスムーズにできた。参加者の年齢に応じた遊びが提供できた。 ・マスクができない子どもたちの参加になるので、密を避けるように工夫はするが、難しかった。	・遊びのコーナー作り等、年齢にあわせてできるように、準備をする。近隣の未就園児が減少傾向にあるので、他地域にも情報発信していきたい。
				認定こども園 神戸親和大学 附属親和幼稚園	・月に1回『なかよし幼稚園』を実施している。 ・参加者の方に子育てや幼稚園に関する相談にも随時応じている。 ・希望制で10:00～11:00を自由参観の機会を作っている。 ・キンダーカウンセラーを活用し、子育て相談の実施。	・コロナ禍のため参加定員を設けての実施となった。 ・丁寧にかかわることが出来、安全・衛生面の配慮もできた。 ・子育て相談は3年目に入り、定着してきた。	・安全面の確保 ・広報の方法	・未就園児、地域への発信方法の工夫
				ゆうかりフレンズ	・園庭開放(第2木曜日、第2、4土曜日) (内容) 園庭を開放し、自由に好きな遊びを提供したり、子育て相談をする。 ・子育ての場などに広報を貼り、ホームページにも掲載している。	コロナ禍のため、利用者が少なかった。	体調不良や家庭の事情のため、当日のキャンセルがあり、利用がなくなった。	コロナ禍の為、参加者が少なかったため、instagramやTik Tokを活用して参加者を募る。
				若草幼稚舎	・子育て支援事業「ぶどうの木」 ・園見学	・子育て支援事業「ぶどうの木」を毎月実施。親子で楽しむ内容や園行事への参加、保護者のみ参加できる活動では託児を行った。離乳食、給食の試食会では栄養士へ、子育ての悩みについては担当保育士が相談を受けている。 ・園見学を開催	・ぶどうの木の予約の電話が殺到し、申込日の電話予約開始時間は電話が使えなくなり、ぶどうの木の予約以外の電話が受けられない。	・ネット予約を開始する。

★第2期子ども・子育て支援事業計画 事業別評価シート (認定こども園記載用)

基本目標Ⅱ すべての子育て家庭を応援するまち

幼稚園・認定こども園名	私立幼稚園・認定こども園 集約分
-------------	------------------

2-1必要なときに必要な子育て支援が受けられるようにします

(1)子育て中の親子の出会いのきっかけづくりの推進

番号	項目	対象	取組内容	園名	令和4年度の取組み内容	取組み・評価	実施上の課題	改善すべき点と改善策
70	園庭・園内開放	就学前の子どもとその保護者	在宅の子育て家庭に安全な遊び場や交流の機会を提供する。 ●実施場所 保育所・市立幼稚園・認定こども園・私立幼稚園	認定こども園 湊川短期大学 附属北摂第一 幼稚園	・毎月のすこやか広場の開催 2～4回程度…園庭解放	・定期的に開催する予定を組んでいたが、感染拡大により、取り止めた期間がしばらくあった。 ・保護者の方向士が育児の悩みや入園に関する相談をし合う交流の場となっている。	・駐車場の空きスペースに限りがある。 ・雨天時には園庭開放が中止になるが、知らせる手段がないのが問題である。	・保育センター利用児も大勢いる中で危険が伴うこともある。保育センター児の戸外遊びの時間を調整することで改善できた。
				認定こども園 湊川短期大学 附属北摂中央 幼稚園	○あいあいルーム ・登録制とし、登録のあった方のみ内容を送付し出欠の確認を行った。 ・月2回(第2火曜日・第4木曜日)の10:00～11:30、親子での参加とした。 ・季節の遊びや制作、園外保育、保護者向けの講演会を取り入れた。 ○園庭開放 ・毎月2回、土曜日の10:00～11:00の時間帯で、親子で参加し園庭で自由に遊んだ。	・出欠の確認を取ることで準備を無駄なく行えた。 ・保護者同士も顔見知りになり親しく過ごす姿があった。 ・参加人数は、平均2名ほどではあったが、親子で楽しく遊ぶ姿が見られた。	・必要経費は実費徴収とし、急な欠席では返金しないことは事前にお知らせしていたが、プレゼントなどは後日取りに来てもらう必要があった。 ・園だよりや市の広報でのお知らせであるが、知らない方もいるため、参加人数が少ない。	・夏場の暑い時期も同時間であったため、気温などを考慮して時間帯をずらしても良かった。
				認定こども園 ふじ幼稚園	・月1回のすこやか広場、また未就園児クラス終了後、参加登録者に対して、園庭開放を行っている。	・安心できる場で、子どもたちは存分に遊びを楽しんでいる。また保護者同士の親睦や情報交換の場となっている。 ・年々参加人数は減少している。しかし、参加人数が少ないからこそ、未就園児や保護者の方とのコミュニケーションは取りやすいという利点もあった。	・駐車場の確保 ・今年度はすこやか広場を利用される方が例年より少なかった。多くの方に利用していただけるよう情報の公開方法を検討していきたい。	・保護者の方へ利用時のルールの伝達をしっかりと行い協力をいただく。 ・気軽に参加ができ、また参加がしたくなるようなプログラムを検討していく。
				認定こども園 三田あさひ幼稚園	・コロナ禍で子どもたちのかかわりが希薄化すること、公園でのびのび過ごせないことを勘案し、在園児の園庭開放は継続した。	・保護者同士が仲良くなることで情報交換や育児についての話などがしやすい。 ・保護者間で話が弾み、子どもを見ていない為に子どものトラブルやケガが増えている。	・園庭にはそれぞれの遊具や玩具の使用上の約束や注意点があり、一般の保護者への伝達の難しさがある。	・園庭解放時の怪我が例年増加傾向にあり、保護者により子どもの安全を意識づけていく必要がある。 ・園庭を地域に開放し、より多くの方が安心して過ごせる機会とその広報に力を入れたい。
				認定こども園 三田さち幼稚園	月2回 土曜日の園庭開放 (イベントとして、すいか割りやシャボン玉遊び・水遊び等も実施) 親子遊び教室の実施	安全に参加してもらえるように、検温・消毒に協力いただく。 シャボン玉遊び・水遊び等では、広い園庭を活用し家庭ではなかなかできないような楽しみ方を心がけている。 また、初めて来園された親子の方が入りやすいような雰囲気づくりを心がけている。 園庭開放に来られた方に未就園児向けの「さくらんぼクラス」の案内をして、参加を促している。	参加の保護者同士が交流できるよう、声をかける。また、1人目のお子さまをお持ちの保護者には育児の悩みなど相談会の方法を検討する必要がある。	園庭開放をしていることを多くの方により知ってもらうためにいろいろなところ(SNSの活用含む)案内を増やす必要がある。 消毒液の設置。おもちゃの消毒など実施。
				三田つつじが丘認定こども園	・園庭開放やオープンクラスなどの実施。	・園の生活を体験して頂いたり、環境を間近で見得るので入園後の生活のイメージを持って頂きやすいと考える。	・感染症対策などで、計画が立てづらかったり、計画していても実施できないものもあった。	・つつじが丘以外の地域からだ公共交通機関が不便なので自家用車でないと来てもらにくい。
				三田けやき台認定こども園	広報としてプリントや看板、HPを利用し、例年は、1回目はオープンクラスとし2歳児・3歳児&5歳児の保育の発表、親子体操を企画し、2回目は園庭開放とし、コーナー遊び、親子体操など、家庭では出来ない遊びを提供した。3回目はSUNSUNキッズ運動会とし、未就園児SUNSUNキッズ(園独自の活動年間24回)の運動会に一般の方も参加を募り、幼稚園での生活を味わい、観覧して頂く機会を提供した。 実施:幼稚園	例年は、コーナー遊びでは家庭では出来ない遊びを提供したり、沢山の保育士と関わり、喜んで頂けた。子育て中の親子の出会いのきっかけ作りとなり、喜ばれた。	例年、駐車場の確保が難しい。	・環境構成に留意する。
				認定こども園 やよい幼稚園	○『やよいっ子広場』毎週土曜日の午前中、園庭開放を実施。 ・地域の未就園児親子、在園児、小学生(兄弟のみ)に遊び場の提供 ・園講師の陶芸教室・英語であそぼう・運動あそび・書初め体験は実施した。 ・地域のボランティアによる“親子であそぼう!”と題して、折り紙教室、木工クラフト工作・けん玉教室を開催 ・未就園児保護者に子育てや幼稚園に関する相談も実施。 ○印刷物、ホームページ、ようちえんネットで広報している。	・コロナ禍、遊び場の提供を喜ばれた。(特に未就園児親子) ・経験豊富な年配職員が毎回担当し、継続しての子育て相談を喜ばれる。 ・小学生(在園児兄弟)も含め、陶芸教室の体験ができ、幼稚園の窯で焼き、完成した作品ができるので喜ばれる。	・駐車場の確保	保育との兼ね合いで日程を調整する。

★第2期子ども・子育て支援事業計画 事業別評価シート (認定こども園記載用)

基本目標Ⅱ すべての子育て家庭を応援するまち

幼稚園・認定こども園名	私立幼稚園・認定こども園 集約分
-------------	------------------

2-1必要なときに必要な子育て支援が受けられるようにします

(1)子育て中の親子の出会いのきっかけづくりの推進

番号	項目	対象	取組内容	園名	令和4年度の取り組み内容	取り組み・評価	実施上の課題	改善すべき点と改善策
70	園庭・園内開放	就学前の子どもとその保護者	在宅の子育て家庭に安全な遊び場や交流の機会を提供する。 ●実施場所 保育所・市立幼稚園・認定こども園・私立幼稚園	認定こども園 湊川短期大学 附属北摂学園 幼稚園	○すこやか広場 毎月1回15:00~16:00 職員と未就園児親子で歌や、ダンス、製作、読み聞かせを楽しむ。 ○園庭開放 毎月1回15:00~16:00 園庭で自由に遊ぶ。	・保護者同士の交流の場になった。 ・なるべく室内で過ごす時間を減らし密にならないようにした。園庭で遊ぶ時間を増やした。	・室内、園庭遊具ともに、1、2歳向けのものがない。	・地域の未就園児の減少傾向を感じる。今後の情報発信を他地域へも広げる。
				認定こども園 神戸親和大学 附属親和幼稚園	・月に1回『わくわく幼稚園』の開催時に園内・園庭を開放している。 在園児の降園後、14:30~17:00まで同年齢の子どもと一緒に遊んだり、季節に応じた遊びを楽しめるように心掛けている。初めて保護者と離れて園で過ごす子どもがほとんどなので、保護者も子どもも安心して過ごせるように配慮する。	・わくわく幼稚園に参加することで園の雰囲気に慣れたり、保育者とじっくりかかわりを持つことで安心して生活する姿が見られた。 ・園庭では在園児と関わって遊ぶことを楽しむ姿も見られた。 ・在園児も未就園児のお世話などをする様子も見られた。	・コロナの影響もあり、実施回数は少なかった。今後は、地域の方に気軽に参加いただけるように方法を工夫していく。	・活動内容を工夫したり、広報の方法を工夫していきたい。
				ゆうかりフレンズ	・園庭開放(第2木曜日、第2、4土曜日) (内容) 園庭を開放し、自由に好きな遊びを提供したり、子育て相談をする。 ・子育ての場などに広報を貼り、ホームページにも掲載している。	コロナ禍のため、利用者がなかった。		コロナ禍の為、参加者が少なかったため、instagramやTik Tokを活用して参加者を募る。
				若草幼稚園舎	・実施なし			